

加古川市文化財年報

第4号

平成30(2018)年度

令和3(2021)年3月

加古川市教育委員会

加古川市文化財年報

第4号

平成30（2018）年度

令和3（2021）年3月

加古川市教育委員会

目 次

目次・例言・凡例

巻頭図版

第1章 調査研究	1
調査報告1 観音寺城跡 確認調査報告	
調査報告2 神野町西条地区 試掘調査報告	
調査報告3 中西台地遺跡 確認調査報告	
調査報告4 美乃利遺跡 確認調査報告	
調査報告5 高畑古墳 確認調査報告	
調査報告6 鶴林寺 五大尊像軸木墨書 概要調査報告	
第2章 文化財の保護と活用	29
新潟指定文化財 鶴林寺の木造聖徳太子立像	
新市指定文化財 鶴林寺の五大尊像	
第3章 歴史文化基本構想策定事業	37
第4章 文化財審議委員会	39
第5章 文化財関係の事務処理	41
第6章 組織、予算・決算、管理	49
抄録	

例 言 ・ 凡 例

1. 本書は、平成30（2018）年度に加古川市教育委員会が実施した文化財保護のための調査及び活動を記録した報告書である。
2. 本書の作成は、加古川市教育委員会事務局教育指導部文化財調査研究センターが行った。執筆は宮本佳典、山中リュウ、浅井達也、平尾英希が行い、編集は平尾が行った。執筆の分担は文末に明記している。
3. 出土遺物の整理、実測、製図にあたっては、平尾のほか、浅井、古林舞香、埋蔵文化財専門員岡田美穂、加古川市会計年度任用職員 窪田美佳、栗原美緒、佐藤 薫が担当した。
4. 図表作成のデータ整理にあたっては、加古川市臨時職員 高原みさ子、加古川市会計年度任用職員 鳴瀬万寿美の助力を得た。
5. 遺物実測図について、須恵器の断面は黒塗り、それ以外の遺物の断面は白抜きで表現している。
6. 本書掲載の地図は、加古川市発行の都市計画図を一部改変し、使用した。縮尺などは各地図に示したとおりである。
7. 本書で報告した出土遺物、実測図、写真などは加古川市教育委員会が保管している。



写真1 高畑古墳調査区2 遺構検出状況（北東から）



写真2 高畑古墳調査区2 出土遺物



写真3 五大尊像（鶴林寺）

第1章 調査研究

1 埋蔵文化財調査

国及び県の文化財関係補助金事業として、各種開発事業に伴い、市内遺跡の発掘調査や出土品の整理などを行った。平成30(2018)年度の事業費は4,900千円(国費2,450千円、県費1,225千円、市費1,225千円)であった。このほか、事業主の費用負担による民間開発に伴う本発掘調査と加古川市が事業主体となる公共事業に伴う試掘調査を実施した。

平成30年度は、①開発事業に伴い破壊される遺構・遺物を記録保存することを目的とした発掘調査3件、②周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)内での開発事業に伴い破壊される恐れのある遺構・遺物の状況を確認することを目的とした確認調査24件、③周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)外での開発事業に伴い事前に埋蔵文化財の有無を把握することを目的とした試掘調査や分布調査8件を実施した(表1)。

発掘調査は、片山遺跡、粟津遺跡、古大内遺跡の計3遺跡において実施した。以下、各調査成果の概要について述べていく。

片山遺跡 兵庫県が事業実施主体となっていて行っている農業基盤整備事業の雁戸井地区ほ場整備事業に伴い発掘調査を実施した。平成30年度は、平成29(2017)年度に発掘調査を実施した調査区の延長部分において調査を行った。調査の結果、弥生時代中期後半頃の周溝墓や木棺墓が複数基検出されたほか、古墳時代中期以降の竪穴建物、平安時代後期から鎌倉時代頃の掘立柱建物などが検出された。遺物はほとんど出土しなかったが、周溝墓などから弥生土器が出土したほか、調査区全体から土師器、須恵器などが僅かに出土した。なお、発掘調査の成果については、『片山遺跡発掘調査報告書』(加古川市文化財調査報告34)として、令和3(2021)年3月に刊行した。

粟津遺跡 民間開発の店舗建設に伴い発掘調査を実施した。工事によって遺跡が破壊される計18か所の建物基礎部分に調査区を設定して調査を行った。調査の結果、弥生時代後期の竪穴建物1棟のほか、複数の溝状遺構や土坑、古代の耕作溝などが検出された。遺物は、竪穴建物から弥生土器が複数点出土したほか、遺物包含層から弥生土器、土師器、須恵器などが出土した。なお、発掘調査の成果については、『粟津遺跡発掘調査報告書』(加古川市文化財調査報告32)として、令和2(2020)年3月に刊行した。

古大内遺跡 民間開発の工場建設に伴い発掘調査を実施した。「賀古駅家」に比定されている当該遺跡の重要性を考慮して、事業者には駅館院想定域を避けるように工事計画を大幅に変更していただいたうえで、駅館院想定域近くで行われる水路工事部分において調査を実施した。調査の結果、溝状遺構やピットなどの遺構が検出されたものの、判然とした遺構はほとんどなく、また遺物も須恵器と瓦の小破片が少量出土したのみであった。なお、発掘調査の成果については、『古大内遺跡発掘調査報告書』(加古川市文化財調査報告33)として、令和2年5月に刊行した。

確認調査や試掘調査、分布調査については、各種開発事業に伴い周知の埋蔵文化財包蔵地内外で計32件の調査を実施した。本年報では、これらの調査のうち、遺構・遺物が確認されたものを中心として、以下5件の調査成果について報告する(図1)。

- 調査報告1 観音寺城跡 確認調査報告
- 調査報告2 神野町西条地区 試掘調査報告
- 調査報告3 中西台地遺跡 確認調査報告

調査報告 4 美乃利遺跡 確認調査報告

調査報告 5 高畑古墳 確認調査報告

2 その他の文化財調査

埋蔵文化財を除くその他の文化財調査については、市指定文化財の指定に係る美術工芸品の事前調査1件を行ったほか、兵庫県教育委員会による県指定文化財指定に係る調査に対する協力及び文化庁による美術工芸品（仏像）調査に対する協力を行った。このほか、指定文化財を含む市内文化財の現状確認のための巡視27件を行った。

市指定文化財の指定に係る美術工芸品の事前調査は、平成31（2019）年3月14日に加古川市指定文化財となった鶴林寺五大尊像に関するもので、軸木墨書の概要調査を行った。その要点については、「第2章文化財の保護と活用／1指定・登録文化財」に記しているが、今後の文化財保護活動のため、本年報において以下のとおり報告する（図1）。

調査報告 6 鶴林寺 五大尊像軸木墨書 概要調査報告

国や県に協力した調査については、まず、兵庫県教育委員会による県指定文化財指定に係る鶴林寺木造聖徳太子立像の調査で、この像は、平成31年3月12日に県指定文化財に指定された。また、文化庁による美術工芸品（仏像）調査については、同像と、すでに県指定文化財に指定されている教信寺沙弥教信頭像に関するものである。（平尾）

表1 発掘調査、確認・試掘調査及び分布調査一覧

発掘調査						
番号	遺跡	所在地	調査期間	調査面積	調査概要	備考
1	片山遺跡 集落跡 弥生・奈良～中世	八幡町下村地内	9月8日 ～12月28日	356㎡	竪穴建物・堀立柱建物・方形周溝墓・木棺墓、弥生土器・土師器・須恵器・陶器	雁戸井地区ほ場整備事業に伴う発掘調査
2	粟津遺跡 集落跡 弥生～古墳	加古川町北在家2669～2673・2676・2677番	10月2日 ～11月22日	250㎡	竪穴建物・溝、弥生土器・須恵器	民間開発に伴う発掘調査
3	古大内遺跡 官衙跡 奈良	野口町古大内397番2、400番1、411番、453番、469番1	3月4～22日	110㎡	土坑・ピット、土師器・須恵器・瓦	民間開発に伴う発掘調査
確認・試掘調査						
番号	遺跡 ^{註1}	所在地	調査期間	調査面積	調査概要	備考
1	北谷遺跡 集落跡 弥生～中世	西神吉町宮前623番	4月6日	4㎡	耕作痕、遺物なし	
2	畑遺跡 集落跡 縄文～平安	志方町畑316番、317番1	4月17日	13.5㎡	遺構・遺物なし	
3	米田町平津地区	米田町平津108番	5月21日	8㎡	遺構なし、土師器	川西保育園・川西幼稚園更新事業に伴う試掘調査
4	加古川町大野地区	加古川町大野地内	5月21日 ～6月4日	67.5㎡	溝状遺構・土坑・ピット、遺物なし	日岡山公園再整備事業に伴う試掘調査 試掘調査後、包蔵地変更（広沢山遺跡）及び発掘調査
5	石町中世墓 その他の墓 中世	別府町石町52番	5月29・30日	6㎡	土坑、土師器・須恵器	
6	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	東神吉町神吉651番147	6月1日	4㎡	遺構・遺物なし	

番号	遺跡 ^{註1}	所在地	調査期間	調査面積	調査概要	備考
7	一色構居跡 城館跡 中世	平岡町一色 15 番 1、16 番 6	6 月 2 日	10 m ²	遺構・遺物なし	
8	大塚遺跡 集落跡 奈良～中世	野口町良野 613 番 2	6 月 5 日	4 m ²	遺構なし、須恵器	
9	加古川町稲屋地区	加古川町稲屋 68 番 2、69 番、70 番 18、71 番 9・10、水路	6 月 12 日	20 m ²	土坑、土師器	試掘調査
10	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	加古川町大野 845 番	6 月 21 日	2 m ²	遺構・遺物なし	
11	観音寺城跡 城館跡 中世	志方町志方町 1550 番 1・4	6 月 26 日	4 m ²	遺構・遺物なし	
12	観音寺城跡 城館跡 中世	志方町志方町 1129 番 2	6 月 27 日	4 m ²	ピット、遺物なし	
13	升田遺跡 集落跡 奈良	東神吉町升田 1003 番 2	7 月 13 日	4 m ²	遺構なし、土師器・須恵器	
14	神野遺跡 集落跡 縄文～平安	神野町西条 1046 番 2	7 月 27 日	4.5 m ²	性格不明遺構、土師器・須恵器	
15	栗津遺跡 集落跡 弥生～古墳	加古川町北在家 2669～2673・2676・2677 番	8 月 1・2・6 日	51.92 m ²	溝・土坑・ピット・性格不明遺構、弥生土器・土師器・須恵器	確認調査後、発掘調査
16	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町美乃利 338 番 22	8 月 8 日	1 m ²	遺構・遺物なし	
17	下村遺跡 集落跡 弥生～平安	八幡町下村 849 番 2・4	8 月 9 日	4 m ²	遺構・遺物なし	
18	古大内遺跡 官衙跡 奈良	野口町古大内 397 番 2、400 番 1、411 番、453 番、469 番 1	8 月 22 日～9 月 5 日	62 m ²	溝・土坑・ピット、瓦	確認調査後、発掘調査
19	観音寺城跡 城館跡 中世	志方町志方町 1634 番 3	9 月 6 日	6 m ²	性格不明遺構、土師器・須恵器	
20	八幡町船町・下村地区	八幡町船町・下村地内	11 月 6 日	8 m ²	遺構なし、須恵器	市道下村 3 号線等道路拡幅工事に伴う試掘調査
21	野口町北野地区	野口町北野 1207 番 3・4・317・324、水路	11 月 15 日	8 m ²	溝状遺構、遺物なし	試掘調査
22	神吉南遺跡 集落跡 弥生～奈良	東神吉町神吉 209 番 1	11 月 26・27 日	22.5 m ²	遺構なし、土師器・須恵器	
23	神野町西条地区	神野町西条 863 番の一部ほか	12 月 5・7・8 日	31.5 m ²	土坑・ピット・性格不明遺構、土師器・須恵器	試掘調査後、包蔵地変更（西条遺跡）
24	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	野口町坂元 118 番 1 ほか	12 月 11・12・14・17 日	72 m ²	溝・土坑・ピット、土師器・須恵器・瓦	確認調査後、発掘調査
25	八幡町中西条地区	八幡町中西条地内	12 月 14 日～1 月 10 日	104 m ²	溝・ピット・性格不明遺構、土師器・須恵器・瓦	雁戸井地区ほ場整備事業に伴う試掘調査
26	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	加古川町大野地内	12 月 15 日	6.4 m ²	溝・ピット、弥生土器・土師器・須恵器	確認調査後、発掘調査
27	中西台地遺跡 集落跡 弥生～中世	東神吉町神吉 1118 番 1	1 月 11 日	4 m ²	溝・土坑・ピット、土師器・須恵器・陶器・瓦	
28	石弾城跡 城館跡 中世	加古川町木村 659 番 1 ほか	2 月 13 日	4 m ²	遺構なし、鉄釘	
29	野口町水足地区	野口町水足 1 番 32	2 月 18・20 日	約 38,000 m ²	遺構なし、土師器・須恵器・石器	産業系土地利用活用計画に伴う分布調査
30	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	加古川町大野 944 番 2	3 月 8 日	4 m ²	土坑・性格不明遺構、土師器・須恵器・古代瓦	
31	横大路遺跡 散布地 縄文	志方町横大路 268 番 5	3 月 12 日	6 m ²	遺構・遺物なし	

番号	遺跡 ^{注1}	所在地	調査期間	調査面積	調査概要	備考
32	高畑古墳 古墳 古墳	志方町高畑 800 番 1 ほか	3月 15～20 日	46 m ²	横穴式石室・土坑・性格不明遺構、 須恵器・瓦・鉄釘	次年度加教文第 6 号

注1：試掘調査については、遺跡の名称、種類及び時代ではなく地区名を記している。



図1 埋蔵文化財調査及びその他の文化財調査（本書報告分）位置図

調査報告 1 観音寺城跡 確認調査報告

調査場所 加古川市志方町志方町 1634 番 3

調査期間 平成 30 (2018) 年 9 月 6 日

調査面積 6 m²

担当者 浅井達也

1 調査に至る経緯

加古川市志方町志方町 1634 番 3 において、市道山中志方町線道路改良事業に伴う道路拡幅工事が予定された (図 2)。当該地は、観音寺城跡の範囲内に一部該当していたため、事業担当課の加古川市建設部道路建設課と事前協議を行い、遺構・遺物の有無について確認調査を実施することになった。



図 2 調査位置図

2 調査の結果

工事予定地内に、長さ 3 m、幅 1 m の調査区を計 2 か所設定し、確認調査を実施した (図 3)。以下、各調査区の概要について述べる。

調査区 1 調査地の北西部に設定した調査区である。層序は、地表下 0.8 m まで盛土、その下位に明黄褐色、褐灰色、浅黄色の粘質土層 (第 2～4 層) が堆積し、地表下 1.4 m において地山と考えられる黄色粘質土層 (第 5 層) に達する (図 4)。



図 3 調査区配置図

遺構は、調査区北西隅の地山上面において性格不明遺構1基(SX1)を検出した。長軸0.35m以上、短軸0.2mの不定形で、埋土は黄灰色粘質土であった。検出のみにとどめたため詳細は不明だが、検出面直上において土師質土器小片と須恵器片が3点出土した。遺構のすぐ西側からは14世紀頃のものと考えられる東播系須恵器鉢の底部が出土している(図5)。

調査区2 調査地の南東部に設定した調査区である。調査区の大部分が攪乱されており、南東隅の一部で層序を確認できたに過ぎなかったが、調査区1とほぼ同様の層序であった。しかし、湧水が激しく、地山の黄色粘質土層は確認できなかった。調査区2では、遺構・遺物ともに認められなかった。

3 まとめ

今回調査地は、中世の城館跡である観音寺城跡の北端部に位置する。

『増訂印南郡誌(前後編)』によると、観音寺城は戦国時代に櫛橋氏が居城とし、天正年間に羽柴秀吉によって落城した志方城であると記述されている(兵庫県印南郡役所1973)。

また、『兵庫県の中世城館・荘園遺跡』によると、現在の観音寺境内から志方小学校にかけてが主郭と推測されており(兵庫県教育委員会1982)、今回調査地は主郭北西側の外堀内側の城域内であると考えられる。

今回の調査で確認された遺構・遺物が志方城と直接関連するものかは不明であるが、これまで志方城域内で遺構・遺物が確認された事例はほとんどないため、貴重な成果が得られたといえよう。(浅井)

参考文献

兵庫県印南郡役所 1973『増訂印南郡誌(前後編)』名著出版

兵庫県教育委員会 1982『兵庫県の中世城館・荘園遺跡-兵庫県中世城館・荘園遺跡緊急調査報告-』兵庫県教育委員会

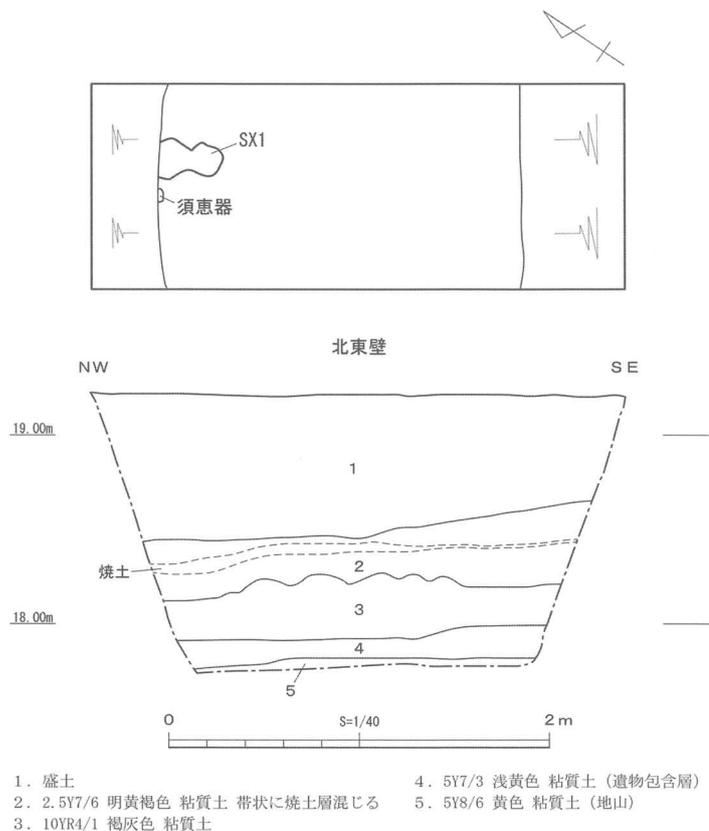


図4 調査区1平面図、土層断面図

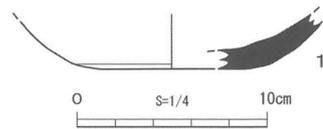


図5 出土遺物



写真4 調査区1掘削状況（北西から）



写真5 調査区1完掘状況（北西から）

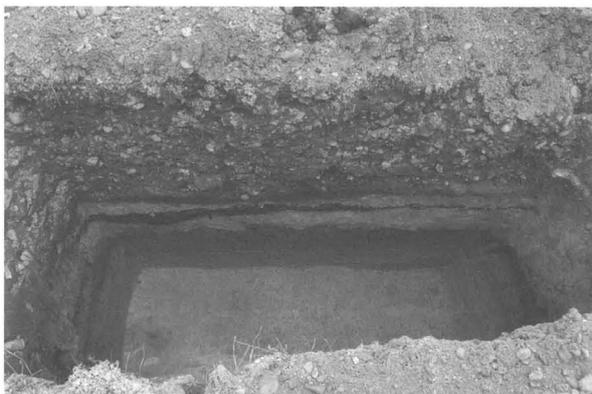


写真6 調査区1土層堆積状況（南西から）

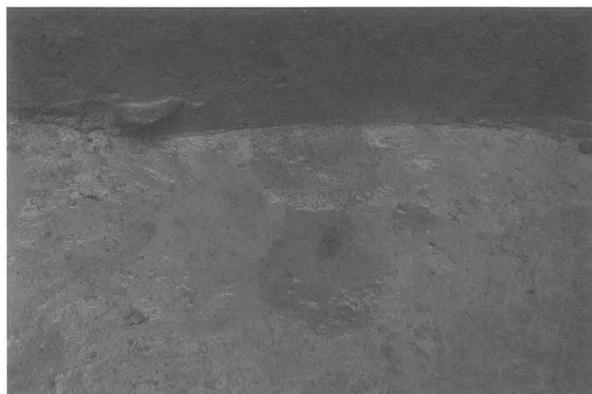


写真7 調査区1SX1検出状況（南東から）



写真8 調査区2掘削状況（北西から）



写真9 調査区2完掘状況（北西から）



写真10 調査区2土層堆積状況（南西から）



写真11 調査区1包含層出土遺物

調査報告 2 神野町西条地区 試掘調査報告

調査場所 加古川市神野町西条 863 番の一部ほか
調査期間 平成 30 (2018) 年 12 月 5・7・8 日
調査面積 31.5 m²
担当者 山中リュウ

1 調査に至る経緯

神野町西条 863 番の一部ほかの 2,174 m²の土地において、宅地造成工事が予定された (図 6)。当該地は、いなみの台地の北西端にあたり、加古川左岸に接する野口段丘上に位置している。現地表面での標高は約 13 m である。この土地は周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれない場所であったが、西条遺跡 (旧神野遺跡) の北側隣接地にあたるため、開発事業者と協議を行い、試掘調査を実施することになった。

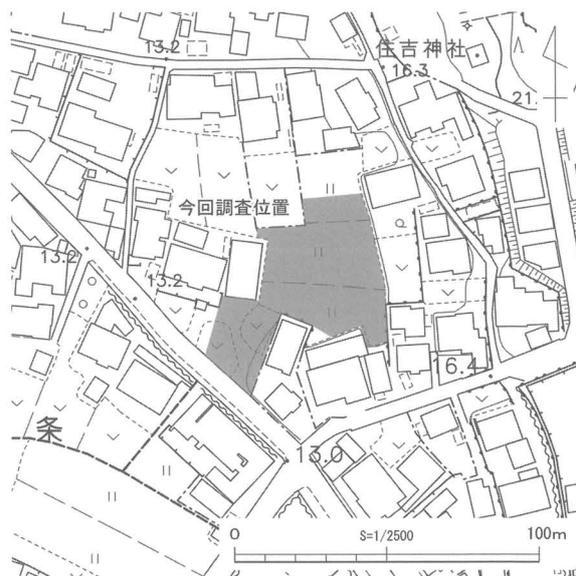


図 6 調査位置図

2 調査の結果

平成 30 (2018) 年 12 月 5・7・8 日の 3 日間をかけて、工事予定地内に 1.5 m × 3.0 m の調査区を 7 か所 (調査区 1～7) 設定し、試掘調査を行った (図 7)。この結果、すべての調査区から何らかの遺物が出土し、6 か所の調査区で遺構を検出した。以下、各調査区の調査結果について述べていく。

調査区 1・2・3 工事予定地南側に設定した調査区である。この周辺は調査前まで宅地として利用されてきた場所で、地表下 0.50～0.80 m まで現代表土が堆積している (図 8)。調査区 1・2 では、その下部に旧耕作土を確認し、調査区 3 では近世磁器を含むにぶい黄褐色砂質土を確認した。いずれの調査区も標高 12 m 付近から下部は厚さ 0.15～0.30 m の遺物包含層となり、標高 11.85 m 前後で自然堆積層 (地山) と考えられるシルト層となる。この自然堆積層上面から楕円形や円形、方形の土坑を合計 7 基検出し、調査区 2 からは杭跡も検出した。円形や方形の土坑は、掘立柱建物に伴う柱穴の可能性がある。遺構の掘削は行っていないものの、遺構面を覆っている遺物包含層からは弥生時代から奈良・平安時代にかけての遺物が出土している。器種のわかるものは少ないが、調査区 1 出土の土師器皿、須恵器皿などがある (図 10 - 1・2)。

調査区 4・5・6 工事予定地の中央に設定した調査区である。この周辺は調査前まで田地として利用されてきた場所で、地表下 0.20～0.30 m まで水田耕作土や床土が堆積している (図 8・9)。調査区 4・5 では、その下部に近世磁器を含むにぶい黄褐色砂質土を確認し、調査区 6 では 2 層に分かれる遺物包含層を確認した。調査区 4 では近世層の下部で厚さ 0.15 m ほどの遺物包含層を部分的に確認した。一方、調査区 5 では遺物包含層は確認されず、標高 11.9 m 付近で自然堆積層 (地山) と考えられるシルト層を確認した。調査区 4・6 では、遺物包含層の下部 (標高 11.85 m 付近) で自然堆積層を確認した。調査区 4・5 の自然堆積層上面に遺構があり、調査区 4 から大型の性格不明遺構 1 基、調査区 5 から円形もしくは方形の土坑 2 基を検出した。調査区 6 では遺構は確認できなかった。調査区 5 の東壁際で検出した土坑を掘削したところ、深さは 0.30 m であった。遺物は出土していない。調査区 4・6 の遺物包含層からは、弥生時代から中世にかけての遺物が出土し、器種のわかるものとして、調査区 4 出土の須恵器皿 (図 10 - 3)、調査区 6 出土の土師器鍋 (図 10 - 4) などがある。

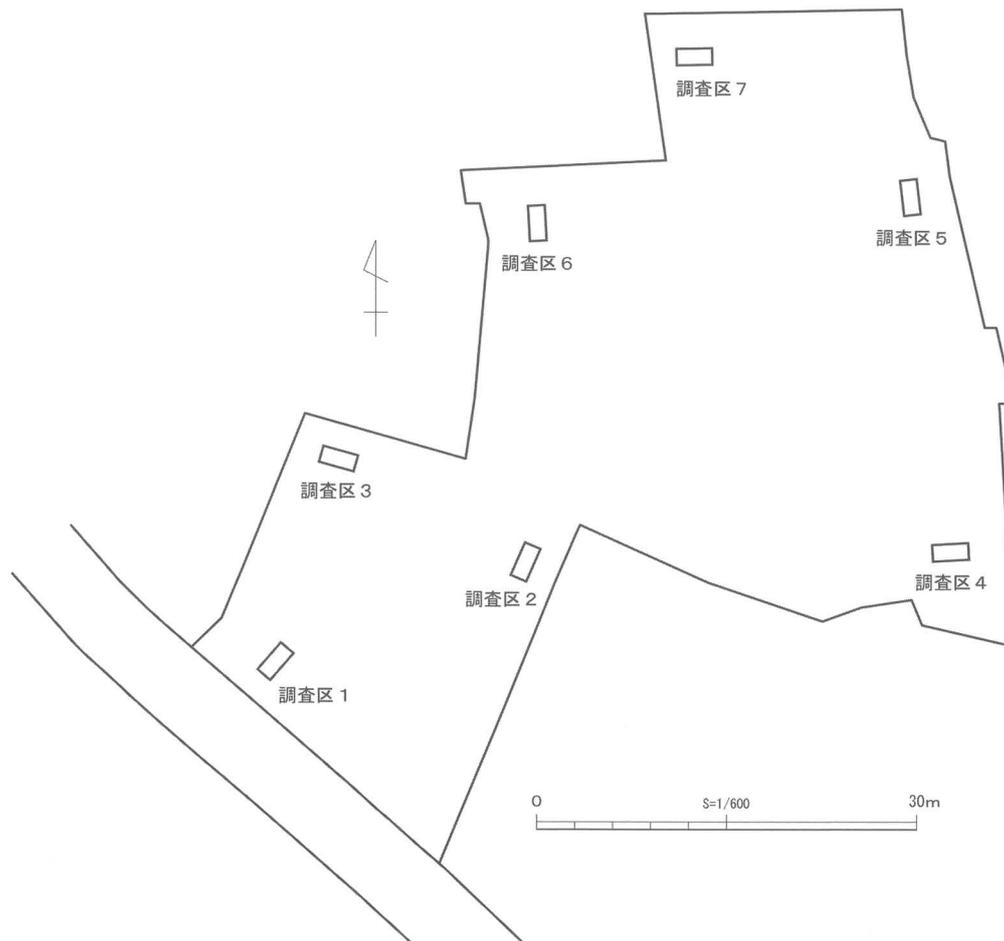


図7 調査区配置図

調査区7 工事予定地北側に設定した調査区である。この周辺は調査前まで畑地として利用されてきた場所で、地表下0.35mまで耕作土や床土が堆積している。その下部に調査区5と同様の近世盛土が堆積し、標高12m付近から下部は2層に分かれる遺物包含層となっている。その下部は、標高11.8m付近でいぶい黄橙色シルトの自然堆積層（地山）となり、この層の上面で大型の性格不明遺構、土坑、ピット各1基を検出した。遺物は、遺物包含層から弥生時代から奈良・平安時代にかけての土器片が出土したほか、性格不明遺構を精査中に埋土の上面から奈良・平安時代頃と考えられる土師器や須恵器の小片が出土した。器種のわかるものとして、遺物包含層から出土した土師器甕の把手などがある（図10-5）。

3 まとめ

試掘調査の結果、7か所中6か所の調査区から合計14基の遺構を検出した。内訳は、大型の性格不明遺構2基、土坑10基、ピット1基、杭跡1基である。このうち、調査区7で検出した性格不明遺構からは奈良・平安時代頃と考えられる須恵器甕片などが出土した。それ以外の遺構は調査区5の土坑のほかは掘削を避けたため遺物の有無は不明だが、これらの遺構面を覆う遺物包含層からは弥生時代から中世にかけての土器類が出土しており、遺構の時期もそれらの時期と対応するものと考えられる。今回検出の遺構はすべて標高11.85m付近の自然堆積層（地山）上面から検出した。

以上のような状況は、当該地の南側に展開する西条遺跡（旧神野遺跡）の様子とよく似ており、今回の調査によって西条遺跡の集落跡が当該地まで続いていることがほぼ確実となった。また、敷地の

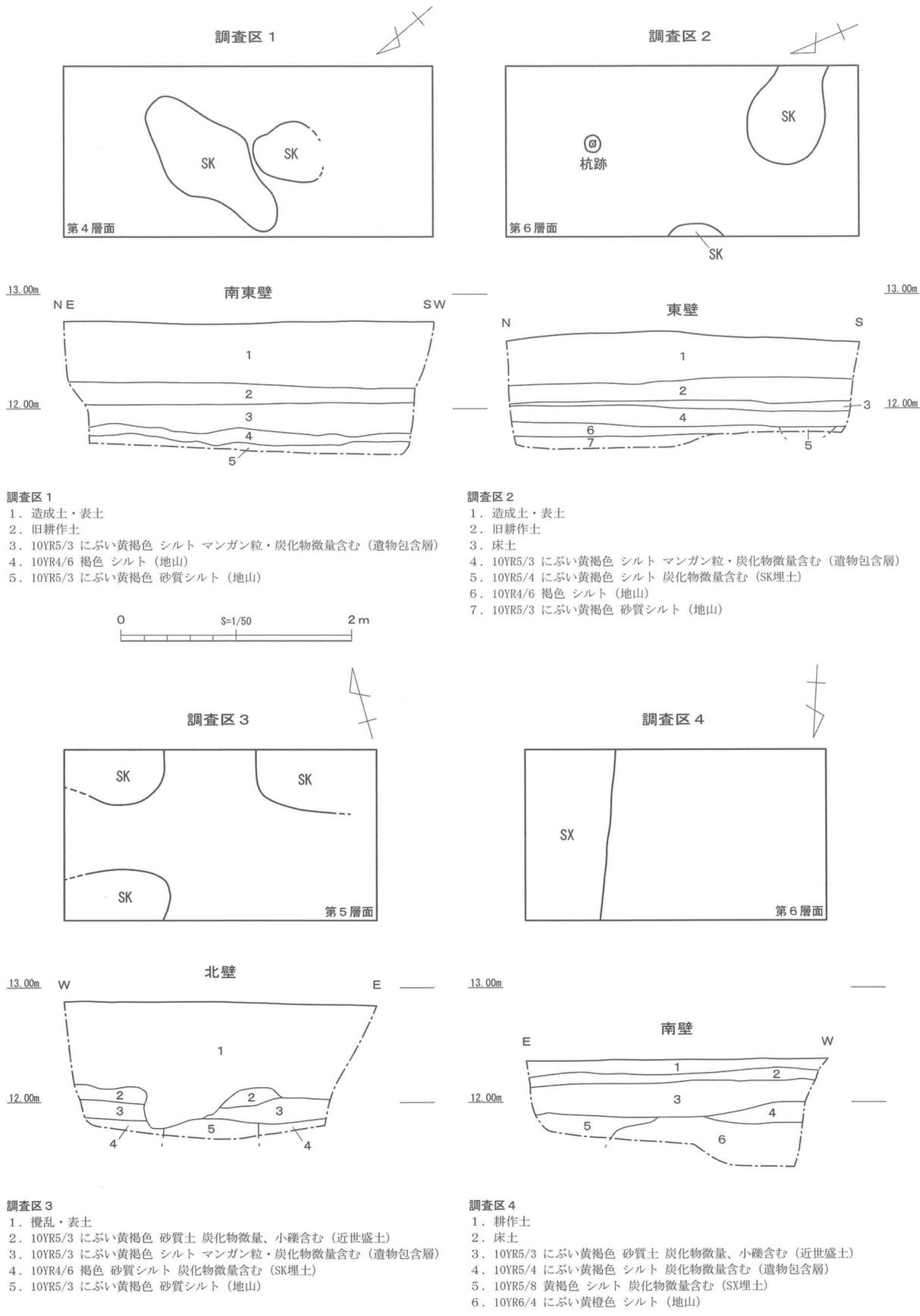


図8 調査区1～4平面図、土層断面図

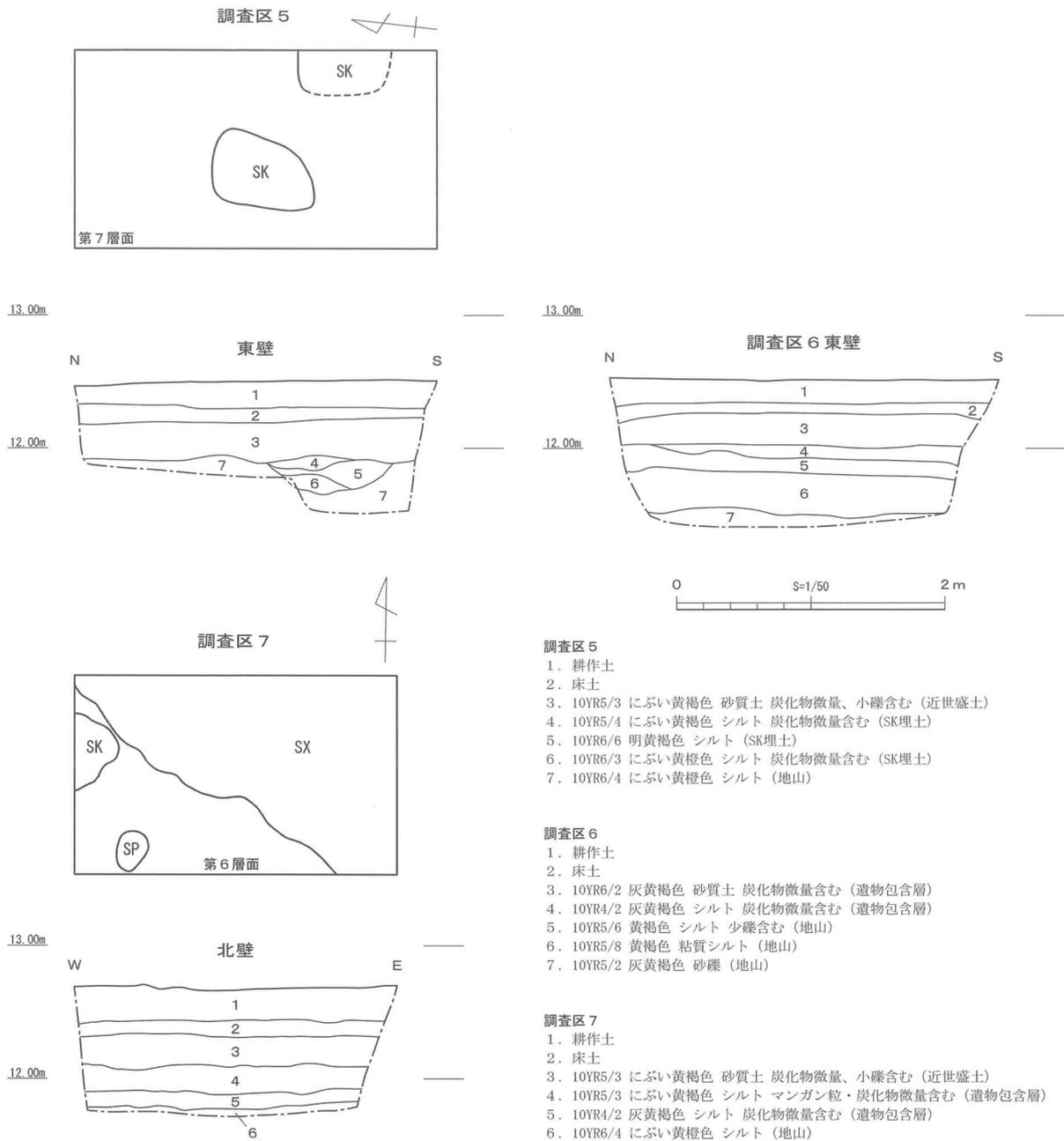


図9 調査区5～7平面図、土層断面図

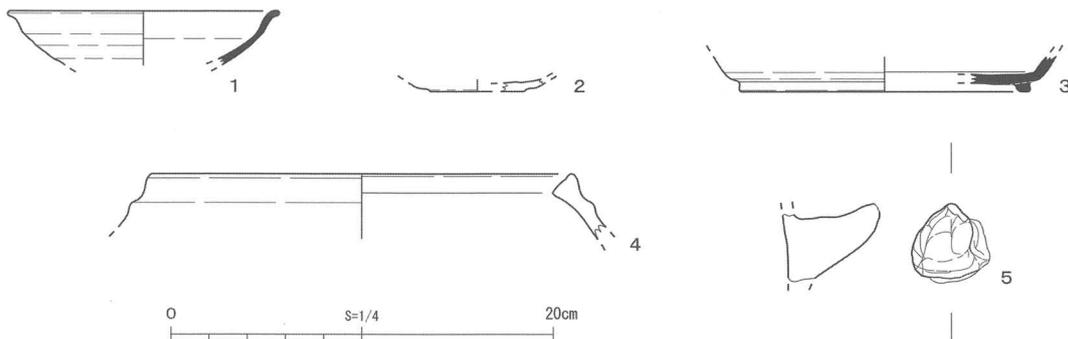


図10 出土遺物

北端部に設定した調査区7で遺構・遺物を確認したことから、遺跡範囲は当該地の更に北側へ広がる可能性が高いことが確かめられた。

この結果をもとに、加古川市教育委員会は平成31(2019)年1月18日付けで周知の埋蔵文化財包蔵地の変更について兵庫県教育委員会に報告した。また、これまで「神野遺跡」としていた遺跡名称について、大字名に対応するように「西条遺跡」へと名称変更することも併せて報告した。その後、平成31年4月1日付けで兵庫県教育委員会から包蔵地の範囲変更通知を受けた。(山中)

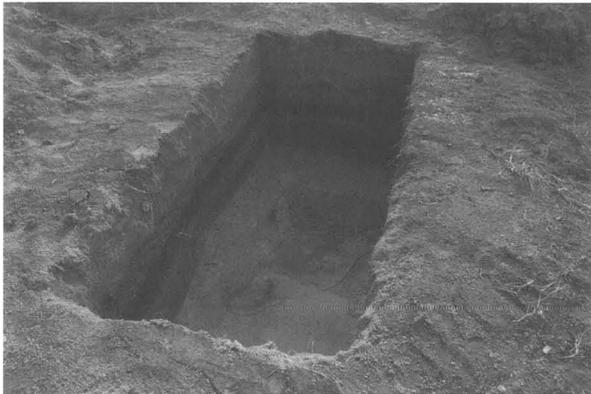


写真12 調査区1完掘状況(北から)



写真13 調査区1土層堆積状況(北西から)



写真14 調査区1遺構検出状況(南西から)



写真15 調査区2完掘状況(南西から)



写真16 調査区2土層堆積状況(西から)



写真17 調査区3完掘状況(南東から)

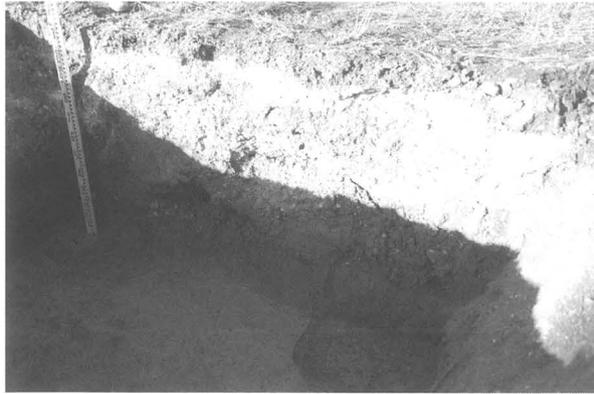


写真 18 調査区 3 土層堆積状況（南から）



写真 19 調査区 3 遺構検出状況（東から）



写真 20 調査区 4 完掘状況（北西から）



写真 21 調査区 4 土層堆積状況（北から）



写真 22 調査区 5 完掘状況（北西から）



写真 23 調査区 5 土層堆積状況（西から）

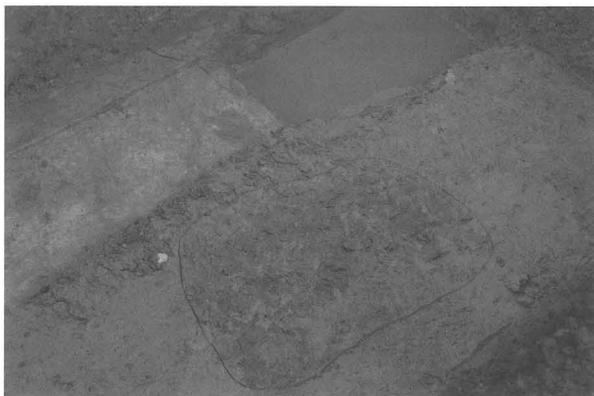


写真 24 調査区 5 遺構検出状況（北西から）



写真 25 調査区 6 完掘状況（北西から）



写真 26 調査区 6 土層堆積状況 (西から)

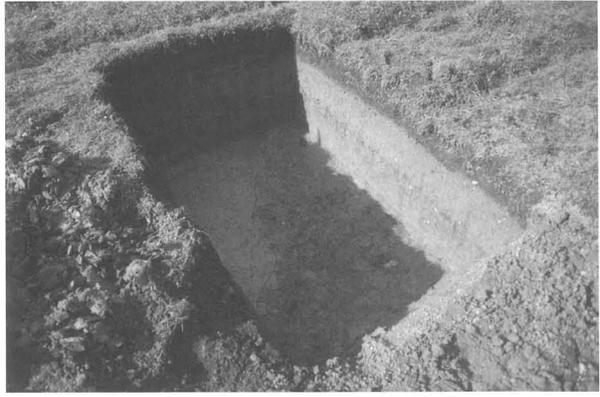


写真 27 調査区 7 完掘状況 (南東から)



写真 28 調査区 7 土層堆積状況 (南西から)



写真 29 調査区 7 遺構検出状況 (東から)



写真 30 調査区 1・4・6・7 包含層出土遺物

調査報告 3 中西台地遺跡 確認調査報告

調査場所 加古川市東神吉町神吉 1118 番 1

調査期間 平成 31 (2019) 年 1 月 11 日

調査面積 4 m²

担当者 浅井達也

1 調査に至る経緯

東神吉町神吉 1118 番 1 において、個人住宅建替え工事が予定された (図 11)。当該地は、中西台地遺跡の範囲内に該当していたため、開発者と事前協議を行い、遺構・遺物の有無について確認調査を実施することになった。

2 調査の結果

工事予定地内に一辺 2 m の調査区を 1 か所設定し、確認調査を実施した (図 12)。なお、今回の調査では、調査地の南西に位置するマンホールの中央を仮の水準点 (KBM) として高さの基準とした。

層序は、地表下 0.5 m まで盛土、旧耕作土、その下位に灰白色混じり明黄褐色砂質土層 (第 3 層)、明黄褐色混じり黄灰色砂質土層 (第 4 層)、黄灰色砂質土層 (第 5 層) が堆積し、地表下 0.8 m で地山と考えられる黄色粘質土層 (第 11 層) に達する (図 13)。

黄色粘質土層上面において複数の遺構を検出した。平面的に南北方向と東西方向に直行する溝 2 条と土坑 1 基、ピット 1 基が検出されるとともに、深掘りした南壁土層断面においてさらに 3 基の遺構が確認された。遺構埋土はいずれも黄色混じり黄灰色砂質土であった。

遺物は、第 3～5 層及び溝の埋土から土師器、須恵器、古代瓦が出土した (図 14)。

3 まとめ

今回確認調査の結果、複数の遺構が検出されるとともに、おもに奈良時代から平安時代にかけての遺物が出土した。調査面積は 4 m² と狭小であったものの、かなりの密度で遺構が分布していた。

中西台地遺跡は、弥生時代から中世の集落遺跡とされているものの、遺跡範囲の西側の一部が奈良時代の寺院跡である中西廃寺と重複している。今回調査地は中西台地遺跡の北西部に位置し、中西廃寺の本堂推定地から約 150 m 北東に位置している。

今回の調査で確認された遺構・遺物が中西廃寺と直接関係するものかは明らかではないが、今回の調査地周辺には中西廃寺と同じ時期の遺構が広がっている可能性が高いといえよう。 (浅井)

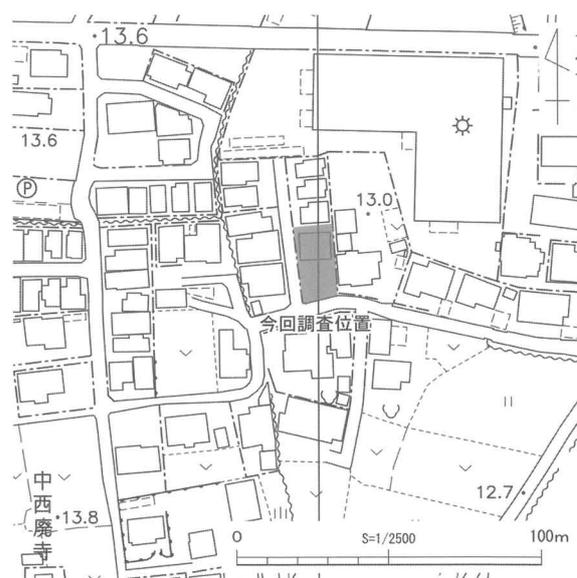


図 11 調査位置図



図 12 調査区配置図

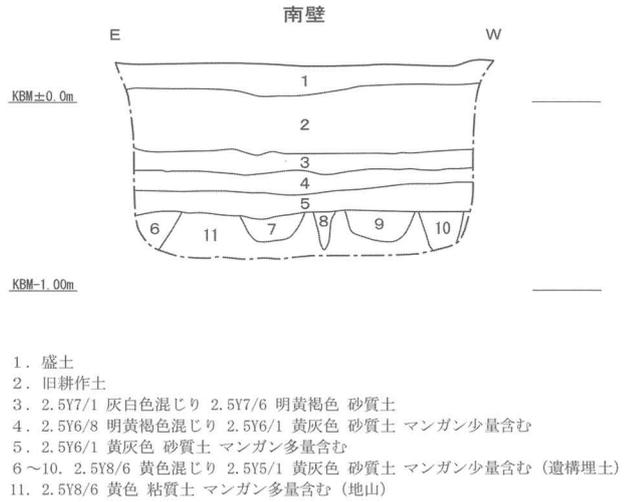
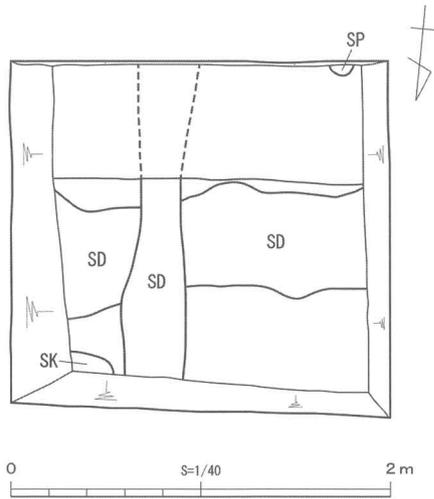


図 13 調査区 1 平面図、土層断面図

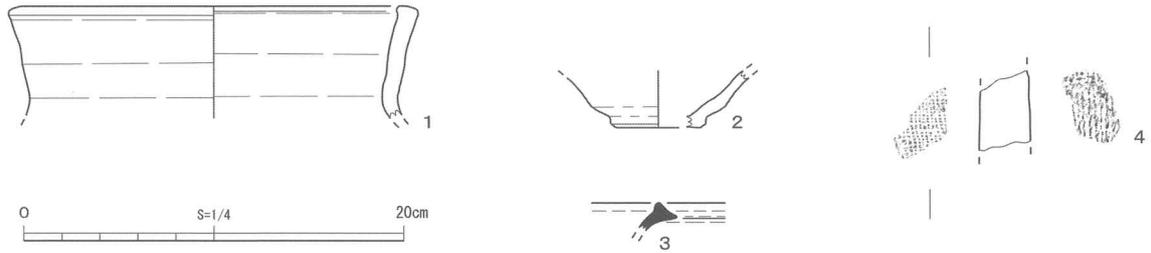


図 14 出土遺物



写真 31 調査区 1 遺構検出状況 (北から)



写真 32 調査区 1 土層堆積状況 (北から)



写真 33 調査区 1 南壁遺構確認状況 (北から)

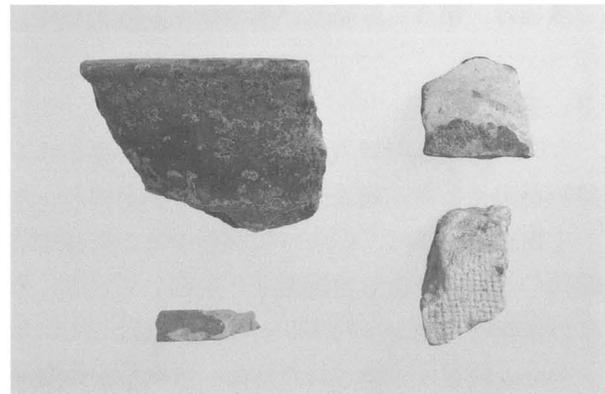


写真 34 調査区 1 包含層等出土遺物

調査報告 4 美乃利遺跡 確認調査報告

調査場所 加古川市加古川町大野 944 番 2
調査期間 平成 31 (2019) 年 3 月 8 日
調査面積 4 m²
担当者 浅井達也

1 調査に至る経緯

加古川市加古川町大野 944 番 2 において個人住宅建設工事が予定された (図 15)。当該地は、美乃利遺跡の範囲内に該当していたため、開発者と事前協議を行い、遺構・遺物の有無について確認調査を実施することになった。

2 調査の結果

工事予定地に一辺 2 m の調査区を 1 か所設定し確認調査を実施した (図 16)。なお、今回の調査では、調査地西端に仮の水準点 (KBM) を設定し、高さの基準とした。

層序は、地表下 0.8 m まで盛土、耕作土が堆積し、その下位に灰白色砂質土層 (第 3 層)、明褐色砂質土層 (第 4 層) を埋土とした性格不明遺構を検出した (図 17)。この遺構は調査区全面に広がっており、土師器、須恵器が出土したため、当初は遺物包含層と判断したが、断面観察から褐色砂質土層 (第 5 層)、灰黄色粘質土層 (第 6 層) を掘り込んだ遺構と認識するにいたった。第 5・6 層からは土師器、須恵器、古代瓦が出土した (図 18)。第 6 層直下の地表下 1.2 m で明黄褐色粘質土層の地山層 (第 8 層) に達するが、この上面から褐色粘質土層 (第 7 層) を埋土とした土坑を検出した。第 7・8 層からは遺物は出土しなかった。

3 まとめ

美乃利遺跡は、加古川下流域左岸に形成された自然堤防上に立地し、溝之口遺跡の北東に隣接する。平成 2 (1990) 年以降、平成 10 (1998) 年まで一級河川別府川河川改良事業に伴い、兵庫県教育委員会 (以下、県教委) によって断続的に発掘調査が実施され、調査の結果、弥生時代から鎌倉時代の遺構・遺物が確認され、当該時期の複合遺跡であることが明らかになった (山田編 1997)。

今回調査地は美乃利遺跡の北西端に位置し、県教委の調査地点から約 300 m 北東に位置する。周辺は長く耕作地であったが、近年は次第に宅地開発が進んでいる地域である。宅地造成に伴って近隣で行われた確認調査では水田遺構が検出されている。

今回の調査では、耕作土層直下の第 1 面、地山層直上の第 2 面の計 2 面の遺構面を検出した。出土

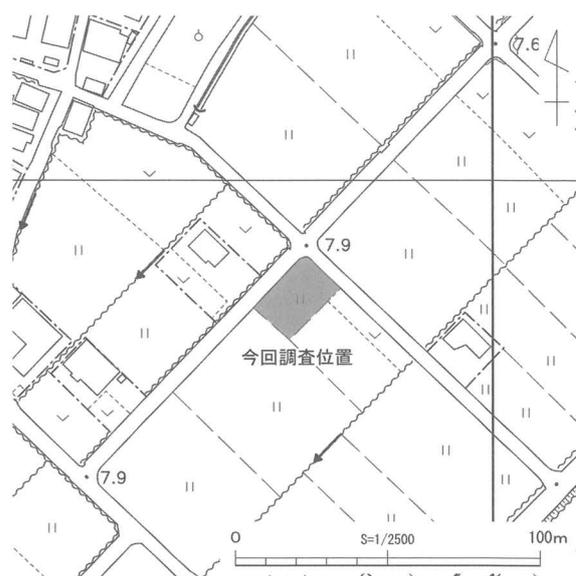


図 15 調査位置図

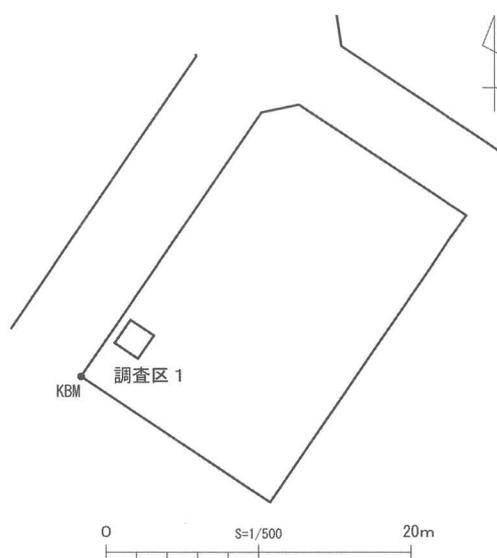


図 16 調査区配置図

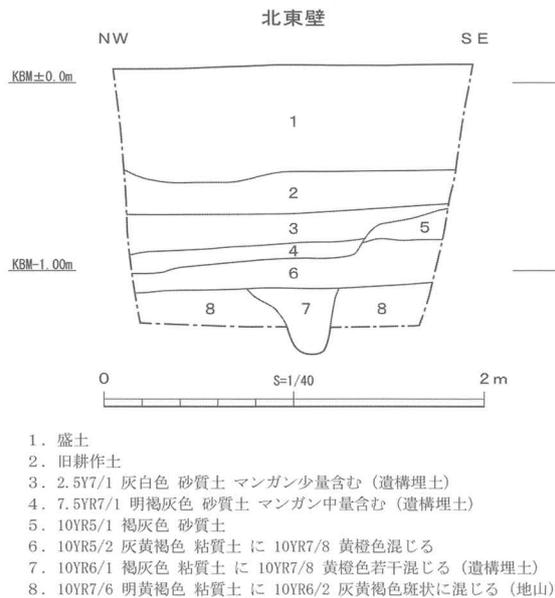


図 17 調査区 1 土層断面図

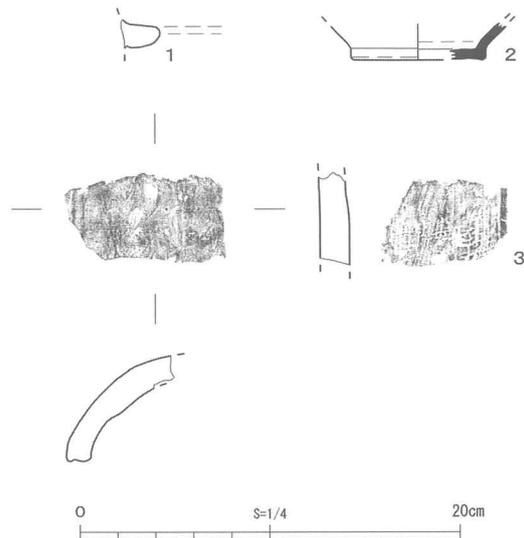


図 18 出土遺物

遺物から、第 1 面の遺構の年代は平安時代以降と考えられるが、その規模や形態、性格の詳細は不明である。一方、第 2 面の遺構は、平安時代の須恵器を包含する第 6 層の下位から検出されていることから平安時代以前の遺構と考えられる。今回調査では水田遺構は確認できなかったが、県教委の調査と同じく、複数期の遺構を検出した。調査地周辺は未だ未調査の耕作地が多く残されており、宅地造成などの開発が行われていく可能性が考えられるため、今後の調査に期待したい。(浅井)

参考文献

山田清朝編 1997『美乃利遺跡 - 一級河川別府川河川改良事業に伴う発掘調査報告書 - 』兵庫県文化財調査報告第 165 冊 兵庫県教育委員会

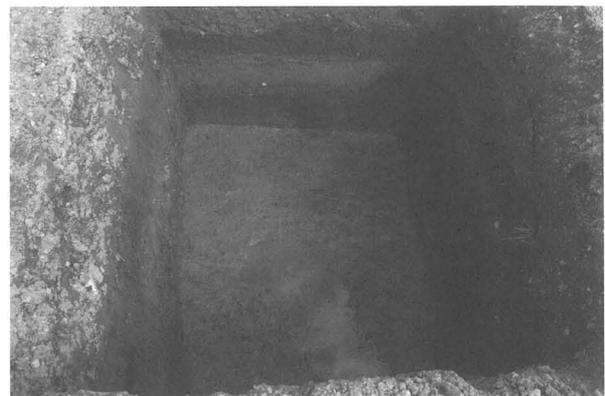


写真 35 調査区 1 完掘状況 (南西から)



写真 36 調査区 1 土層堆積状況 (南西から)

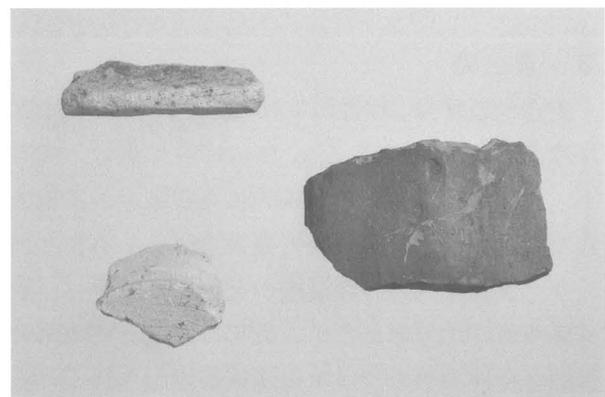


写真 37 調査区 1 包含層出土遺物

調査報告 5 高畑古墳 確認調査報告

調査場所 加古川市志方町高畑 800 番 1 ほか
調査期間 平成 31 (2019) 年 3 月 15 ~ 20 日
調査面積 46 m²
担当者 浅井達也・平尾英希

1 調査に至る経緯

加古川市志方町高畑 800 番 1 ほか (2,482 m²) の土地において店舗建設工事が予定された (図 19)。当該地には、高畑古墳が登録されているものの、旧状は大きく改変されており、墳丘などの痕跡は地表からは確認できない状況であった。ただ、加古川市の遺跡分布地図に記載されている古墳位置の周辺には堀池が存在しており、古墳が壊された際に造られた堀池である可能性が考えられた。このような状況であったため、開発者と事前協議を行い、古墳の正確な位置の把握や工事による影響などを検討するための確認調査を実施することになった。

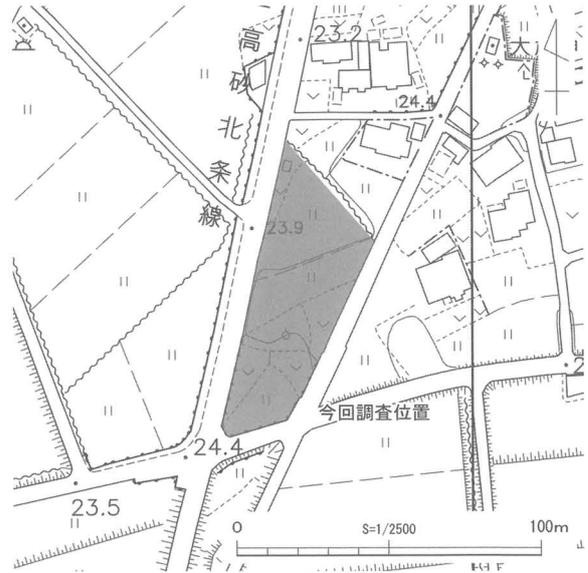


図 19 調査位置図

2 調査の結果

前述のように、敷地内に存在する堀池が古墳破壊時の痕跡と想定されたため、堀池を中心として計 3 か所の調査区を設定し、確認調査を実施した (図 20・21)。以下、調査区ごとに成果を述べていく。

調査区 1 堀池の北西方向に設定した調査区で、調査面積は 10 m² (2 m × 5 m) である。

層序は、耕作土直下の地表下約 0.2 m で灰白色粘質土の地山に達する。調査区南東側が堀池に向かって大きく攪乱されている状況が観察され、攪乱土中には近現代瓦が多く含まれていた。古墳に関わる遺構・遺物は確認されなかった。

調査区 2 堀池の北東方向に設定した調査区で、調査面積は 22 m² (2 m × 7 m + 1 m × 8 m) である。調査当初、調査区の南西部分 (2 m × 7 m) を掘削したが、横穴式石室の残存部とみられる痕跡が検出されたため、調査区をさらに北東方向に拡張して調査を行った。

層序は、調査区の北東側では耕作土直下の地表下約 0.2 m で灰白色粘質土の地山に達するが、それ以外の部分では地山のうえに攪乱土及び古墳埋土が堆積している。全体的に北東から南西へ傾斜しており、南西側が堀池に向かって大きく落ち込んでいる。落ち込みに堆積する土層の大部分は近現代瓦を含む造成土であり、また落ち込みの下位には横穴式石室の構築石材とみられる大型の花崗岩の石材が 3 石転落していた。

調査区中央部では、明黄褐色粘質土に灰黄褐色シルトが混じった層 (第 4 層) の下位で石室石材とみられる花崗岩の石材が数石検出された。南壁沿いで検出された石材は地山を掘り込んで据えられており、原位置を保っていると考えられる。このほか、石材の抜き取り痕と考えられる土坑 3 基 (SK 1 ~ 3) が検出されており、その配置は横穴式石室の平面形態を示している可能性が高い。また、その中央部では性格不明遺構 1 基 (SX 1) が検出された。

第 4 層の下位には、灰褐色粘質土に黄褐色粘質土が混じった層 (第 12 層) が堆積し、その下位において灰白色粘質土に明黄褐色粘質土が混じった地山 (第 15 層) が確認された。第 12 層中から須恵

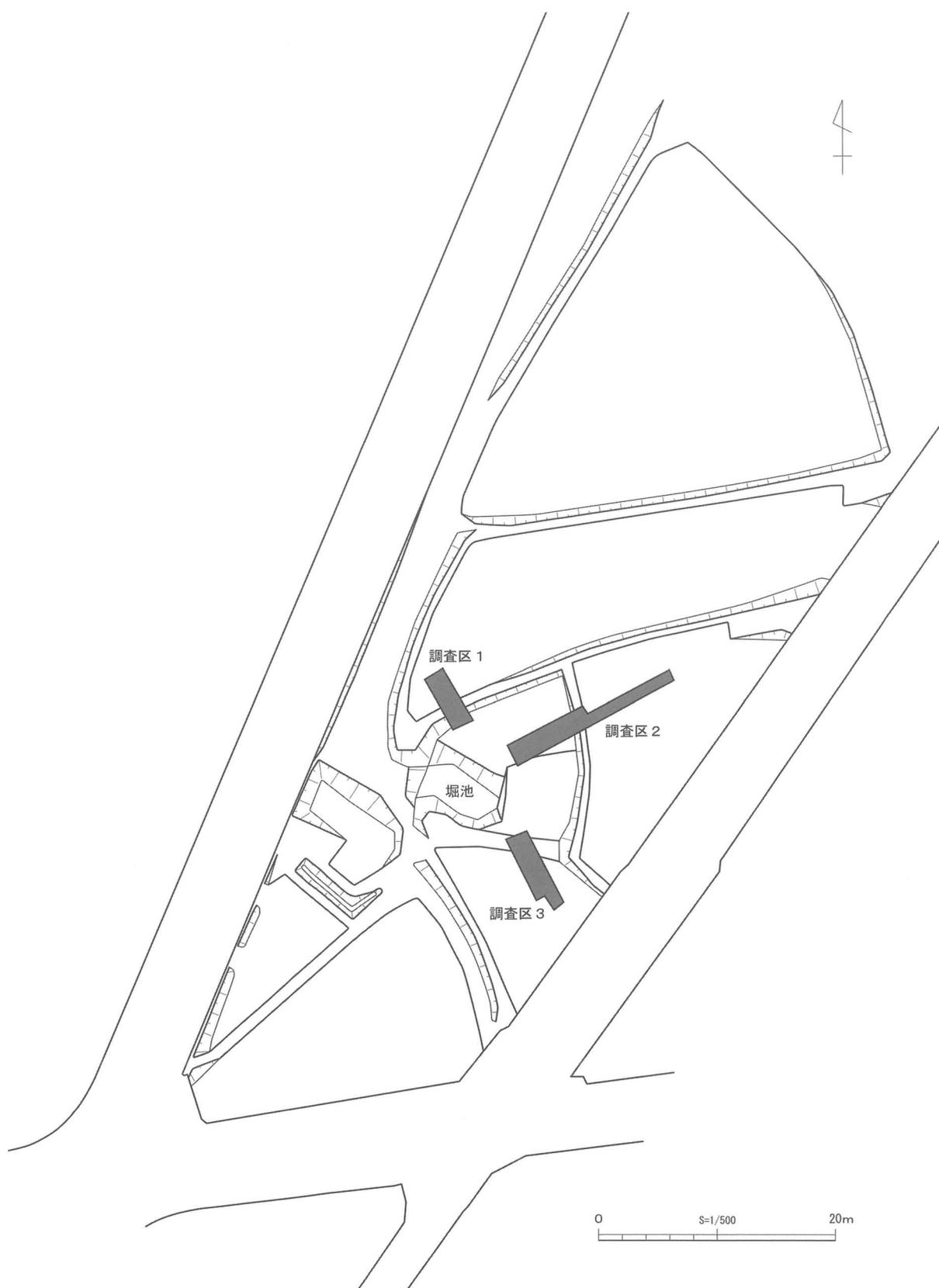


図 20 周辺簡略地形図及び調査区配置図

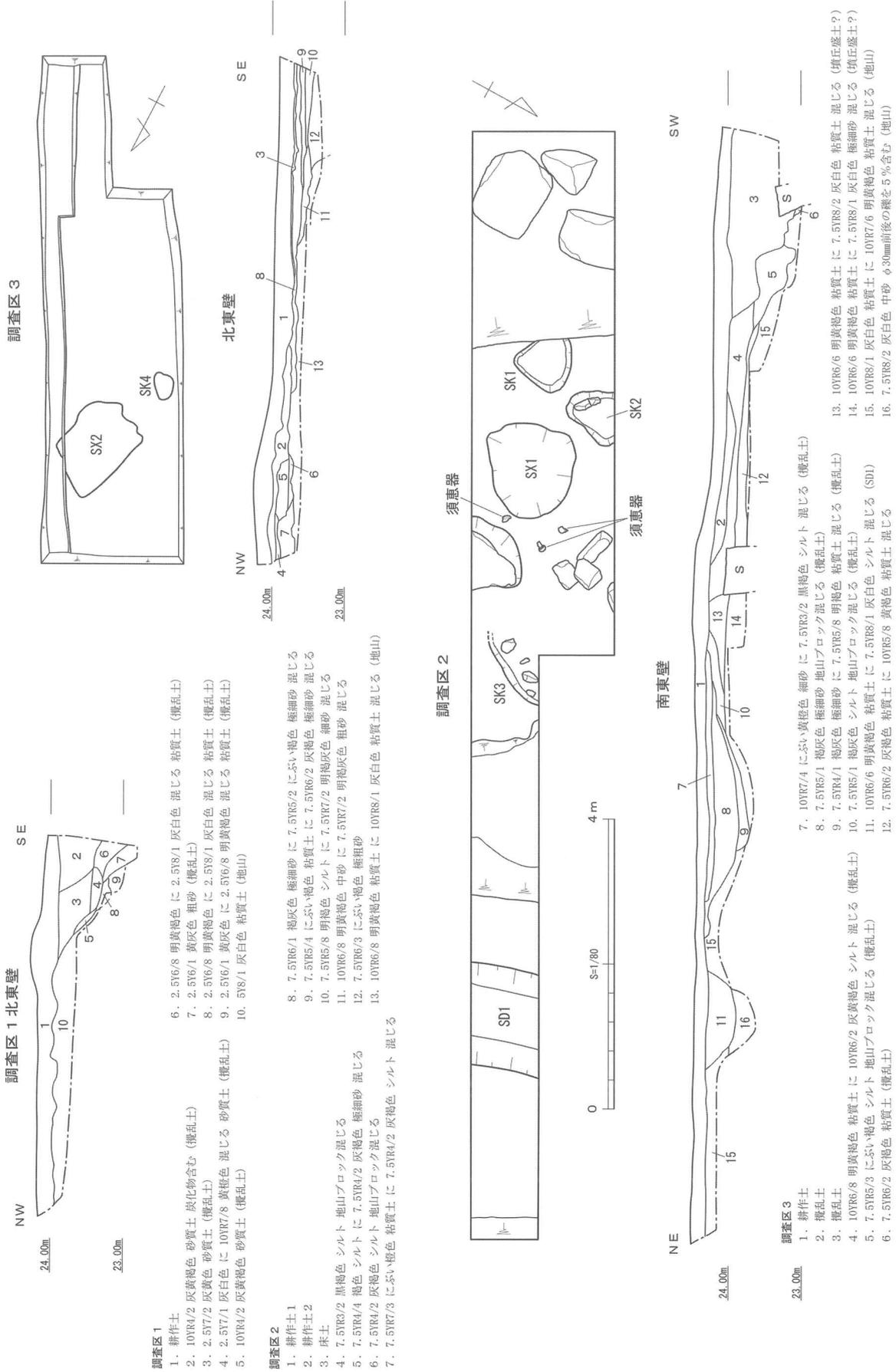


図 21 調査区 1～3 平面図、土層断面図

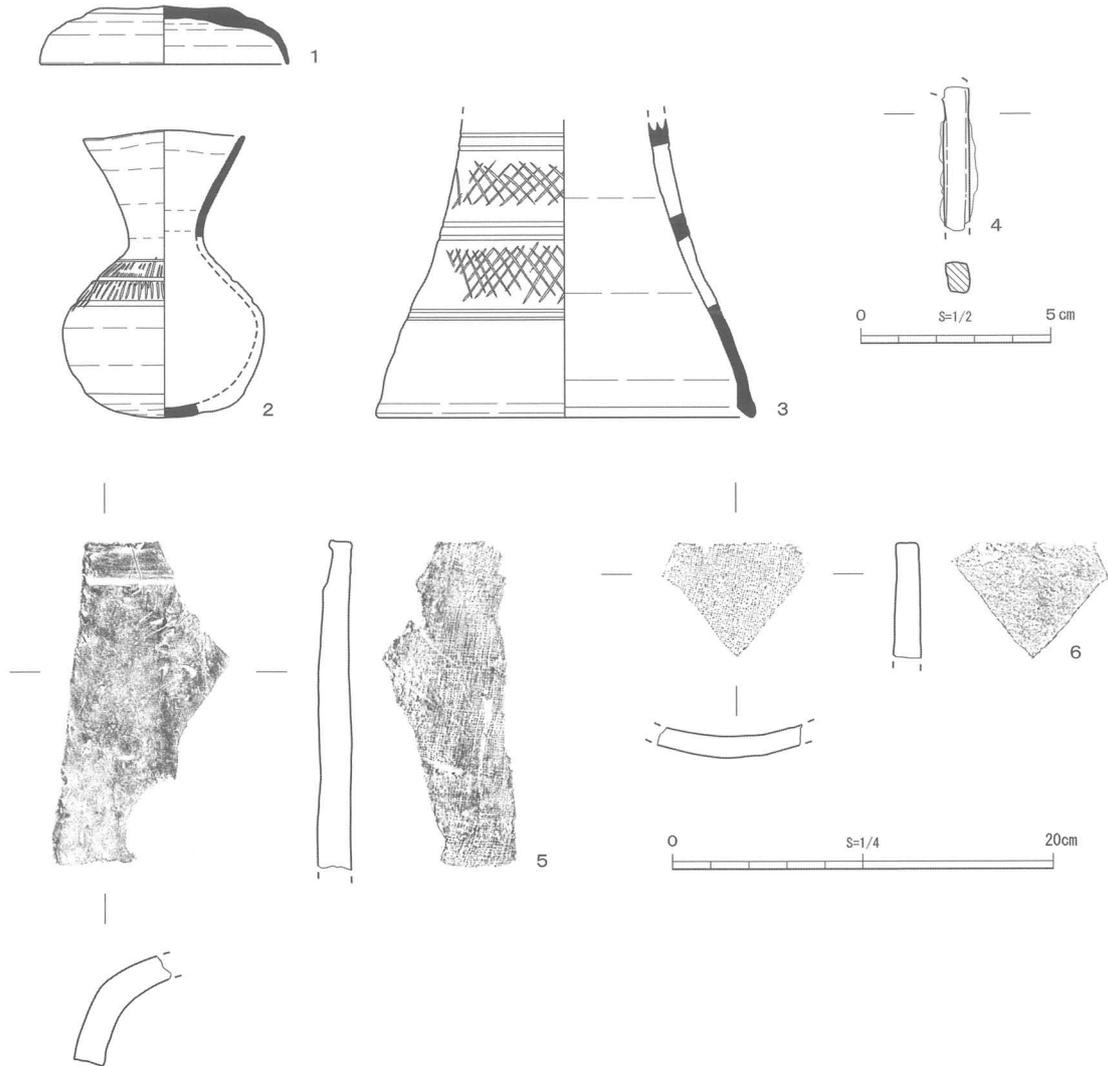


図22 調査区2・3出土遺物（1～5：調査区2、6：調査区3）

器3点、古代瓦1点、鉄製品1点が出土した（図22-1～5）。須恵器には、杯蓋、壺、器台の脚部があり、いずれも7世紀前半頃のものと考えられる。古代瓦は丸瓦片で、いわゆる行基瓦と考えられる。鉄製品は鉄釘とみられる。

北東方向の拡張区については、一部攪乱を受けていたものの、耕作土直下の地表下約0.18mから南北方向に延びる溝状遺構1条（SD1）が検出された。幅1.35m、深さ0.38mを測り、明黄褐色粘質土に灰白色シルトが混じった層（第11層）を埋土としている。横穴式石室との位置関係から周溝の可能性はある。

調査区3 堀池の南東方向に設定した調査区で、調査面積は14㎡（2m×6m+1m×2m）である。調査当初、調査区の北西部分（2m×6m）を掘削したが、調査区南東側に地山と異なる明黄褐色中砂層（第11層）の堆積を確認したため、調査区を南東方向に拡張して調査を行った。

層序は、耕作土、旧耕作土、床土が堆積し、床土直下で明黄褐色粘質土に灰白色粘質土が混じる地山に達する。地山直上において土坑1基と性格不明遺構1基が検出され、性格不明遺構から古代瓦が出土した（図22-6）。いずれの遺構も古墳に直接関係するものかは不明である。

3 まとめ

古墳時代後期の志方地域では、丘陵の尾根部や先端部、あるいは山麓に数十基の古墳が築かれている。これらの古墳はいくつかの群に分けられているが、高畑古墳はそのなかで高畑寺山支群に属する。高畑寺山古墳群は、高畑寺山の頂上に築造された第1号墳（寺山古墳）と山麓に築かれた第2号墳（高畑古墳）で構成される。第1号墳はすでに消滅しているが、両袖式横穴式石室をもつ古墳であったという。現在確認できる出土遺物から6世紀中頃に築造された古墳と推定される。

一方の第2号墳については、昭和5（1930）年に削平され、石室の石材は持ち去られたと伝えられている。現在は、畑地のなかに堀池が残されているほか、周辺には樹木が繁茂しており、古墳と認めうる痕跡はまったく確認できない。『古代の志方（古墳時代）』によると、地元の談話では、「横穴式石室墳で南面に開口しており、破壊された時、遺物は出土しなかった」といわれている（釈ほか1976）。破壊される直前の写真から、石室の幅は約2mで、天井石に大型の石材が用いられていたことがわかる。また、調査の際に行った聞き取り調査では、古墳の削平後、現地には瓦などを収納した小屋が建てられており、昭和37（1962）年頃に解体されたということであった。

今回の確認調査では、現地に残された堀池を古墳が壊された際に造られた痕跡と想定し、古墳の範囲を確認することを目的として、堀池を中心に北西、北東、南東の3方向に調査区を設定した。しかし、堀池に近い位置では近現代瓦を多く含む落ち込みが確認されたのみで、結果的に横穴式石室の一部が検出されたのは、堀池の北東約9mのところであった。

今回調査では、調査区2を中心に高畑古墳の横穴式石室や周溝の一部と考えられる遺構及び古墳に伴うと考えられる遺物が出土した。古墳の形態や規模などを検討するには資料が不足しているものの、古墳の位置及び時期を推定できる貴重な成果を得ることができたといえよう。（浅井）

参考文献

釈 瑞次・久留宮巧・三村秀弘・上月昭信 1976『古代の志方（古墳時代）』兵庫県印南郡志方町教育委員会



写真 38 開発区域調査前状況（北東から）



写真 39 調査区 1 完掘状況（西から）

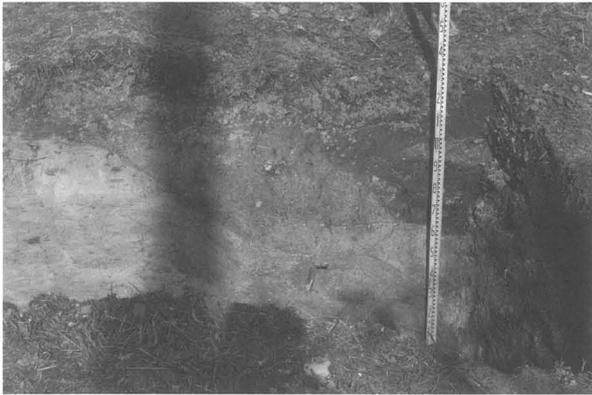


写真 40 調査区 1 南東側の落込み（南西から）



写真 41 調査区 2 全景（北東から）



写真 42 調査区 2 遺構検出状況 1（北東から）



写真 43 調査区 2 遺構検出状況 2 (南から)



写真 44 調査区 2 遺物出土状況 (北から)



写真 45 調査区 2 墳丘盛土部分 (北西から)



写真 46 調査区 2 S D 1 (北西から)



写真 47 調査区 3 完掘状況 (南東から)



写真 48 調査区 3 土層堆積状況 (西から)



写真 49 調査区 3 遺構検出状況 (東から)



写真 50 調査区 2 出土遺物 1



写真 51 調査区 2 出土遺物 2

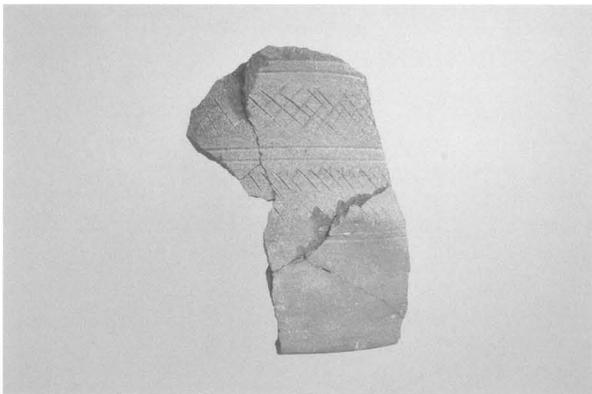


写真 52 調査区 2 出土遺物 3



写真 53 調査区 2 出土遺物 4

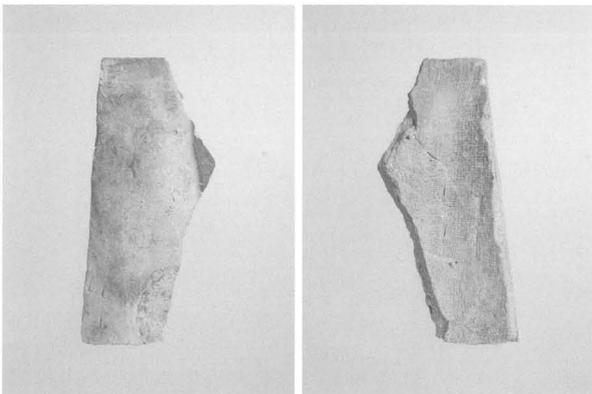


写真 54 調査区 2 出土遺物 5

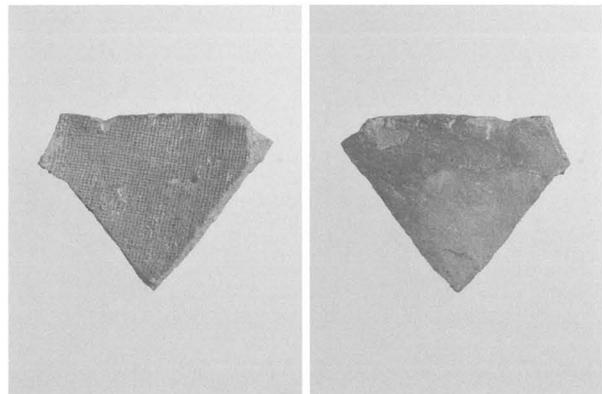


写真 55 調査区 3 出土遺物

調査報告 6 鶴林寺 五大尊像軸木墨書 概要調査報告

鶴林寺には、五大明王を描いた「五大尊像」3幅の絹本の画幅が所蔵されている。この仏画は、やや大きい画幅の中幅に不動明王が、向かって右の右幅に金剛夜叉明王と降三世明王が、向かって左の左幅に大威徳明王と軍荼利明王が描かれたものである。

この画幅は、「永正十四年」(1517年)の墨書がある軸箱で保管されており、室町時代の制作年代のわかる密教絵画として興味深いものである。一部に、経年による傷みがあるものの、画面全体の保存状況は良好なものである。表装部分が捲れており展示公開する機会は少なかったが、このたび、鶴林寺が、善美堂(加古川市加古川町北在家)において、この画幅を修理していたところ、軸木の表面に「永正十三年」(1516年)や「慈雲筆」などと記された墨書が新たに確認された。

この五大尊像は、加古川市指定文化財候補として考えられていたものであり、このたびの、制作年と作者がわかる墨書が確認されたことを契機に、加古川市指定文化財として指定することを検討することとなり、指定に係る調査として、軸木3本について写真撮影及び計測を中心とした調査を実施したため、以下のとおり報告する。

- 1 資料名称 鶴林寺五大尊像軸木
- 2 調査日時 平成31年2月1日 午前10時00分から午前10時30分まで
- 3 調査場所 加古川総合文化センター写場
- 4 調査担当者 宮本佳典(加古川市教育委員会文化財調査研究センター副所長、学芸員)
平尾英希(学芸員)
- 5 調査理由 加古川市指定文化財の指定候補である「鶴林寺五大尊像」の軸木が修理のために取り外されており、表面に墨書がある情報を得た。これを受けて、この軸木について、写真撮影を中心とした記録のための調査を行った。

6 報告内容

調査方法は、目視による観察、測定及び写真撮影である。

調査の結果の要点は、以下のとおりである。

- ①名称 五大尊像軸木
- ②所有者 鶴林寺(住職茂渡俊慶)
- ③数量 3本
- ④現況 中幅の軸木(イ)は、他の二幅のものと比べて少し長くて少し太い。他の二幅の軸木(ロ・ハ)は、同じ長さで太さで、ほとんど判別できないほどである。
軸木(ロ・ハ)には、軸先金具が残るが、軸木(イ)の軸先金具は無くなっている。
- ⑤材質 木製(杉材の白太)
- ⑥時代 室町時代 永正13(1516)年10月22日
※表面の墨書による
- ⑦寸法 軸木(イ) 長さ108.6cm、径3.3cm
(軸先部径3.1cm)
軸木(ロ) 長さ88.7cm、径2.7cm
軸木(ハ) 長さ88.7cm、径2.7cm



写真56 軸箱墨書

⑧記事

軸木(イ) 墨書
播州鶴林寺
五大尊慈雲法眼筆年行事慶順
永正十三天
子丙十月廿二日

軸木(ロ) 墨書
播州鶴林寺
五大尊慈雲法眼筆年行事慶順

軸木(ハ) 墨書
播州鶴林寺
五大尊慈雲法眼筆年行事慶順

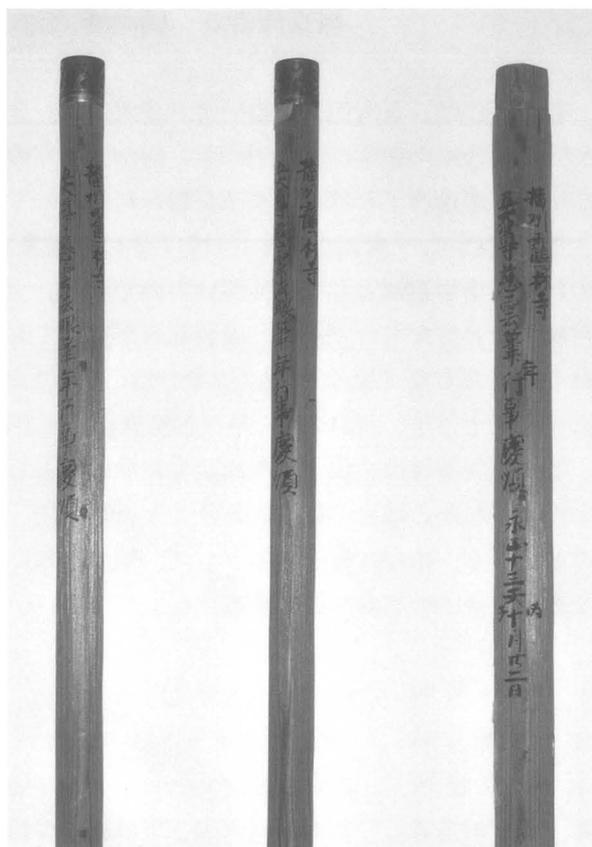


写真 57 軸木墨書 (左：ハ、中：ロ、右：イ)

⑨解釈 墨書から、この図像の作者は慈雲法眼で、年行事である慶順が、永正13(1516)年10月22日に完成したことを、これらの軸木に記録したことがわかる。

慈雲法眼については、詳しくはわからないが、「法橋慈雲」の落款のある同時代の不動明王画像が存在したという情報があることから、当時、明王像をよく描いた絵師であった可能性がある。

慶順については、鶴林寺のその年の世話役を務めていた人物であろう。

⑩その他 軸木(ロ・ハ)の各先端には、金銅製の蓮華文の金具(長さ3.0cm、径2.7cm)が付く。新しいものでなく、製作当初のものと考えられることができる。

(宮本)



写真 58 軸木先端金具 (左：ロ、右：ハ)

参考文献

宮本佳典 2002『仏と神の美術 - 中世いなみ野の文化財 -』加古川総合文化センター博物館特別展図録 加古川総合文化センター

第2章 文化財の保護と活用

1 指定・登録文化財

平成31(2019)年3月31日現在、市内の指定・登録文化財は、国指定23件(国宝2件)39点、県指定33件55点、市指定67件1,422点、国登録9箇所37件である(表2)。

表2 加古川市内の指定・登録文化財一覧

区分	種別	箇所数・件数	計		
国指定	国宝	建造物	2件	23件	
	重要文化財	建造物	4件		21件
		絵画	5件		
		彫刻	6件		
		工芸品	5件		
		史跡	1件		
県指定	建造物	18件	33件		
	絵画	3件			
	彫刻	7件			
	工芸品	3件			
	書跡	1件			
	史跡	1件			
市指定	建造物	4件	67件		
	絵画	10件			
	彫刻	15件			
	工芸品	9件			
	書跡・典籍	6件			
	考古資料	15件			
	無形文化財	1件			
	民俗資料	2件			
	史跡	4件			
	天然記念物	1件			
国登録	建造物	8箇所36件	9箇所37件		
	記念物	1件			

(1) 県指定文化財の指定

兵庫県文化財保護審議会において諮問され、答申を受けた「木造聖徳太子立像」の1件が、新たに兵庫県指定重要有形文化財に指定された。なお、この「木造聖徳太子立像」は、平成30(2018)年3月2日に加古川市指定文化財に指定されたものである。

鶴林寺の木造聖徳太子立像

名称及び員数	木造聖徳太子立像 1 軀
指定分類	彫刻
番号	116
所在地	加古川市加古川町北在家 424 番
所有者	鶴林寺
指定年月日	平成31年3月12日



写真59 木造聖徳太子立像

(2) 市指定文化財の指定

文化財審議委員会にて諮問し、答申を受けた「五大尊像」の1件について、新たに加古川市指定文化財に指定した。

鶴林寺の五大尊像

名称及び数量	五大尊像 3幅
指定分類	絵画
寸法	右幅 縦147.2cm・横60.9cm、中幅 縦140.0cm・横80.4cm、 左幅 縦147.2cm・横60.9cm
材質等	絹本着色、掛幅装、慈雲法眼筆
時代	室町時代 永正13(1516)年
所在地	加古川市加古川町北在家424
所有者	鶴林寺
指定年月日	平成31年3月14日
指定理由	鶴林寺に伝わる3幅の五大尊の画像である。中幅には大きく描かれた不動明王、右幅上方に金剛夜叉明王その下に降三世明王、左幅上方に大威徳明王その下に軍荼利明王が配されている。各像とも、鮮やかで勢いのある火炎光を背景に、憤怒の相をした青黒い肉身をしており、大きな目や口の表情、平面的ではあるが重厚な描写などは、鎌倉時代の絵画をさらに強調した力強い作風である。

五大尊は、密教において、息災、増益や調伏等を祈願する御修法の本尊となるものである。

この画軸の箱書には「永正十四(1517)年九月日」「五大尊 参幅 播州刀田山鶴林寺什」の墨書があり、また、平成30年の修理の中で、軸木に「播州鶴林寺五大尊 慈雲(法眼)筆 年行事慶順 永正十三(1516)天丙子十月廿二日」の墨書が新たに確認されたことにより、作者と製作年が明らかになった。

本図は、室町時代の鶴林寺における密教の修法のようすを示すものであり、作者及び製作時期が明らかな画像として絵画史上意義のある資料であり、室町時代の密教絵画として優れた貴重なものである。



写真 60 五大尊像(鶴林寺)

2 市内遺跡事業（国庫補助事業）

国の文化財補助金事業として、市内遺跡などについて埋蔵文化財の記録の作成、保存に必要な資料を得るための発掘調査及び出土品の資料整理などを行った。内容は、開発に伴う本発掘調査、確認調査、試掘調査、分布調査である。事業費 4,900 千円（国費 2,450 千円、県費 1,225 千円、市費 1,225 千円）。

3 指定文化財保存管理補助事業

指定文化財である「鶴林寺の指定文化財」（鶴林寺）、「宮山遺跡」（上西条町内会）、「北大塚古墳」（西之山町内会）、「築山の榎」（国包伊勢講）の指定文化財保存管理事業に対して補助を行った。事業費 640 千円（補助額 320 千円）。

4 文化財説明板及び標柱の設置

市内所在の文化財についての情報発信、周知徹底のため、文化財の説明板や標柱の設置を行っている。平成 30（2018）年度は、下記のとおり説明板の立替え（4 件）と標柱の新設（4 件）を行った。平成 30 年度末時点での設置状況は、説明板 177 件と標柱 164 件である^{註1}。

説明板の立替え 4 件「北大塚古墳」、「箱形石棺（西条 10 号墳）」、
「天下原の石棺仏（こけ地蔵）」、「国包の石棺仏（セイメイさん）」
標柱の新設 4 件「北大塚古墳」^{註2}、「常楽寺の石棺（身）」

註1：令和 2（2020）年 3 月に発行した『加古川市文化財年報第 3 号平成 29（2017）年度』において、平成 29 年度末時点での設置状況を「説明板 179 件」、「標柱 159 件」と報告していたが、「説明板 177 件」、「標柱 160 件」の誤りであった。

註2：「北大塚古墳」の標柱については、計 3 本の標柱を設置した。

5 本岡家住宅の公開及び活用

平成 10（1998）年に八幡町下村から東神吉町天下原の少年自然の家の敷地内に移築保存された県指定有形文化財本岡家住宅については、事前に見学の予約を受けたうえで、水曜日の午前 10 時と午後 2 時、日曜日の午後 2 時に見学者を受け入れている。また、少年自然の家の無料散策日にも公開を行っている。

毎年、5 月 5 日のこどもの日に「こどもの日特別公開」を行っているほか、11 月下旬のひょうごヘリテージマンスに合わせて「秋の特別公開」を行っている。平成 30 年度の「秋の特別公開」は、11 月 24 日から 11 月 30 日まで実施した。

平成 30 年度の本岡家住宅の利用状況は、表 3 のとおりである。前年度比は 1,004 人の減であった。



写真 61 本岡家住宅「こどもの日特別公開」

表 3 本岡家住宅月別利用者数一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用人数（人）	70	800	30	50	2	0	122	93	188	51	175	113	1,694

6 加古川市文化財講座の開催

市民に加古川地域の歴史や文化財について理解を深めてもらい、文化財保護意識の高揚を図るため、毎年秋季に文化財講座を開催している。

平成30年度の文化財講座の開催状況は、以下のとおりである。

第1回文化財講座

日 時：10月27日（土） 午後2時から午後4時まで
場 所：加古川市立青少年女性センター 大会議室
講 師：神吉和夫氏（博士（工学））
演 題：「土木史からみた加古川 - 近代土木遺産を中心に -」
参加者：56名



第2回文化財講座

日 時：11月17日（土） 午後2時から午後4時まで
場 所：加古川市立青少年女性センター 大会議室
講 師：深田ひろ子氏（志方西小学校教諭）
演 題：「加古川流域における高瀬舟の盛衰」
参加者：51名



第3回文化財講座

日 時：12月1日（土） 午後2時から午後4時まで
場 所：加古川市立青少年女性センター 大会議室
講 師：池本廣希氏（元兵庫大学経済情報学部教授）
演 題：「はりまのため池 その歴史と役割」
参加者：46名



写真 62 文化財講座

7 発掘調査現地説明会の開催

農業基盤整備事業の雁戸井地区は場整備事業に伴う片山遺跡の発掘調査において、平成30年11月10日（土）に現地説明会を実施した。地元住民をはじめとする約138名の参加があった。なお、平成30年度は、文化財調査研究センターの調査と併行して、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部による片山遺跡の発掘調査も実施されており、同日に現地説明会が開催されている。



写真 63 片山遺跡現地説明会

現地説明会は発掘調査中の遺跡を見学できる唯一の機会であるとともに、地域の歴史や文化財について知ってもらうための絶好の場でもあるため、今後も可能な限り実施していきたい。

8 『文化財ニュース』の発行

市内の文化財の状況を伝えるとともに市民の文化財保護意識の高揚を図るため、年に1回『文化財ニュース』を発行し、市内全戸配布をしている。平成30年度は『文化財ニュース』62号を発行した。

なお、バックナンバーを含めてこれまで発行してきた『文化財ニュース』は、加古川市のホームページで閲覧可能である。

9 『文化財解説シート』の発行

平成 21 (2009) 年度から平成 23 (2011) 年度の緊急雇用対策文化財資料整理事業の一環で作成していた市内文化財の個別解説を記した『文化財解説シート』について、平成 29 年度から作成を再開した。加古川市立中央図書館 2 階において無料配布しているほか、加古川市のホームページで閲覧可能である。

平成 30 年度は以下の文化財についての『文化財解説シート』を発行した。

通番 17 号 (史跡 1) 北大塚古墳

通番 18 号 (建造物 1) 平木橋

通番 19 号 (石造美術 15) 西山の弥陀三尊種子板碑・弥陀一尊種子板碑

通番 20 号 (石造美術 16) 西之山地蔵堂の六地藏石仏



図 23 平成 30 年度発行『文化財解説シート』

10 文化財関係団体との連携

「加古川市文化財保護協会」、「加古川文化遺産活性化実行委員会」、「加古川市文化財ガイドボランティア」など、文化財の保護または活用を行っている諸団体の活動に対し、必要に応じて協力している。

11 資料の貸出し、写真資料の貸出し及び掲載承諾

平成 30 年度は、表 4 のとおり資料の貸出し、写真資料の貸出し及び掲載を承諾した。

表 4 資料の貸出し、写真資料の貸出し及び掲載承諾一覧

番号	区分	期間	資料の名称	数量	依頼者	目的
1	貸出し	平成 30 年 4 月 1 日 ～ 平成 31 年 3 月 31 日	溝之口遺跡出土弥生土器	6 点	明石市立文化博物館	常設展での展示
2	貸出し	平成 30 年 4 月 1 日 ～ 平成 31 年 3 月 31 日	行者塚古墳発掘調査図面・写真 行者塚古墳出土埴輪	一式 一式	大手前大学史学研究所	行者塚古墳発掘調査資料の整理
3	貸出し・ 掲載承諾	平成 30 年 5 月 9 日 ～ 平成 30 年 7 月 20 日	行者塚古墳関連写真フィルム	3 点	大阪府立近つ飛鳥博物館	企画展「百舌鳥・古市古墳群に 学ぶ、古墳と水のマツリ」での 展示、印刷物等への掲載
4	掲載承諾	平成 30 年 6 月 29 日	升田山 15 号墳出土三輪玉写真	1 点	古代歴史文化協議会	共同調査研究事業「古墳時代の 玉類」成果図書『玉 - 古代を 彩る至宝 - 』への掲載
5	掲載承諾	平成 30 年 7 月 20 日	平木橋関連写真	1 点	株式会社イディー	J Aバンク兵庫コンサルネット 広報誌『煌き』11 号への掲載
6	掲載承諾	平成 30 年 8 月 7 日	行者塚古墳模型写真	1 点	島根県教育庁	『古代出雲ゼミナール V』への 掲載
7	掲載承諾	平成 30 年 8 月 20 日	東車塚古墳関連写真	1 点	株式会社東京堂出版	『古代風土記』への掲載

番号	区分	期間	資料の名称	数量	依頼者	目的
8	貸出し	平成 30 年 9 月 1 日 ～ 平成 30 年 11 月 13 日	多木肥料看板 酒つぼ 合図灯 車掌靴 制帽 作業帽（別府鉄道） 切符定期券 改札用パンチ 車掌用パンチ 制服 手旗 列車閉塞区間機 尾燈 木桶 運転安全規範準則 運転安全綱領 駅名表示板 木札 工具箱（保線用具） 表示板 着札箱 時刻表 椅子 電車部品 計器 扇風機	1 点 1 点 1 点 2 点 1 点 1 点 一式 1 点 1 点 一式 2 点 1 点 2 点 1 点 1 点 1 点 3 点 1 点 1 点 1 点 4 点 1 点 1 点	加古川総合文化センター	企画展「別府鉄道と近代社会」での展示
9	掲載承諾	平成 30 年 9 月 4 日	東車塚古墳関連写真	1 点	株式会社平凡社	『風土記の世界』別冊太陽への掲載
10	貸出し・掲載承諾	平成 30 年 10 月 22 日 ～ 平成 30 年 10 月 29 日	カンス塚古墳関連写真フィルム	1 点	島根県立古代出雲歴史博物館	企画展「古墳文化の珠玉 - 玉は語る出雲の煌めき -」での印刷物等への掲載
11	貸出し	平成 30 年 10 月 12 日 ～ 平成 30 年 12 月 18 日	笠 担ぎ籠 漏斗 衣装籠 手提げ籠 飯籠 弁当行李 くり籠 芋洗籠 背負籠 椀籠	1 点 一式 1 点 1 点 1 点 1 点 2 点 1 点 1 点 1 点 1 点	加古川総合文化センター	特集展示「カゴにあこがれて」での展示
12	掲載承諾	平成 30 年 11 月 19 日	升田山 15 号墳出土三輪玉実測図	4 点	個人	「水晶製三輪玉の変遷とその政治的・社会的背景」『古墳時代の玉類の研究』島根県古代文化センター研究論集第 21 集への掲載
13	掲載承諾	平成 30 年 11 月 29 日	行者塚古墳出土帯金具写真	1 点	株式会社吉川弘文館	『ここが変わる！日本の考古学 - 先史・古代史研究の最前線 -』への掲載
14	貸出し	平成 30 年 12 月 19 日 ～ 平成 31 年 2 月 11 日	笠 漏斗 背負籠 椀籠 「こも編み」写真	1 点 1 点 1 点 1 点 1 点	加古川総合文化センター	「昔の道具探検隊」での展示
15	貸出し	平成 30 年 12 月 20 日 ～ 平成 31 年 2 月 7 日	時計	6 点	加古川総合文化センター	特集展示「古時計と昔の写真」での展示

番号	区分	期間	資料の名称	数量	依頼者	目的
16	貸出し・ 掲載承諾	平成31年1月22日 ～ 平成31年3月30日	石町中世墓出土埴仏	1点	たつの市教育委員会	特別展「中世のみほとけといのり」での展示、印刷物等への掲載
			石町中世墓出土須恵器甕	1点		
			石町中世墓関連図面・写真	5点		
17	貸出し・ 掲載承諾	平成31年1月23日 ～ 平成31年3月31日	古大内遺跡出土軒丸瓦	1点	兵庫県立考古博物館	「古代山陽道の調査研究事業」に係る調査研究、報告書への掲載
			古大内遺跡出土軒平瓦	1点		
18	掲載承諾	平成31年2月22日	行者塚古墳出土土器・土製品写真	1点	島根県教育庁	「埴輪とは何か」『しまねの古代文化』第26号への掲載
			行者塚古墳埴形埴輪写真	1点		
19	貸出し	平成31年3月7日 ～ 令和2年7月31日	升田山15号墳出土三輪玉	2点	島根県立古代出雲歴史博物館	企画展「古墳文化の珠玉 - 玉は語る出雲の煌めき -」での展示
			升田山15号墳出土金糸	一括		
			升田山15号墳出土須恵器脚付装飾壺	1点		
			升田山15号墳出土杏葉	1点		
			カンス塚古墳出土変形四獣鏡	1面		
			カンス塚古墳出土鉄矛	1点		
			カンス塚古墳出土首飾	1連		
			カンス塚古墳出土腕飾	1連		
			カンス塚古墳出土管玉	6点		
20	掲載承諾	平成31年3月8日	本岡家住宅関連写真	1点	宝塚市教育委員会	企画展「古民家行ってみんか? ～茅葺き屋根の家 県指定旧東家住宅の魅力～」での展示

12 資料調査などの受入れ

平成30年度は、表5のとおり資料調査などの受入れを行った。

表5 資料調査などの受入れ一覧

番号	年月日	調査者	所属	資料		目的
				遺跡	遺物	
1	平成30年5月15日	個人(2名)	奈良県立橿原考古学研究所	東車塚古墳 南大塚古墳 伝勅使塚古墳 長慶寺山1号墳 天坊山古墳 里古墳	七獣鏡	学術研究
					方格T字鏡	
					三角縁神獣鏡	
					三角縁神獣鏡	
					三角縁神獣鏡	
					内行花文鏡	
					浮彫式獣帯鏡	
2	平成30年7月6日	個人	島根大学	東車塚古墳 南大塚古墳 長慶寺山1号墳 カンス塚古墳 天坊山古墳 伝宮山古墳群 里古墳	画文帯神獣鏡	学術研究
					画文帯神獣鏡	
					三角縁神獣鏡	
					獣像鏡	
					方格T字文鏡	
					仿製三角縁神獣鏡	
					内行花文鏡	
浮彫式獣帯鏡						
3	平成30年8月28日	個人	京都府立大学	行者塚古墳遺構写真 人塚古墳遺構写真 カンス塚古墳遺構写真 里古墳遺構写真	画文帯神獣鏡	卒業論文執筆
					画文帯神獣鏡	
					唐草文鏡	
					画文帯神獣鏡	
4	平成30年10月17日	慶尚南道MBC放送局	行者塚古墳	帯金具	テレビ番組取材	
				巴形銅器		
				馬具		
				鉄斧		
				鉄鎌		
				鋸		
				鉄鍬		
鉄鋌						

13 講師の派遣など

市民に地域の歴史や文化財についての理解を深めてもらい、また文化財保護意識の高揚につながるよう、文化財に係る講演会、見学会などの事業に対して講師の派遣などを行っている。

平成30年度は、表6のとおり講師の派遣などを行った。



写真 64 行者塚古墳の現地解説

表 6 講師の派遣など一覧

番号	年月日	派遣職員	派遣先	内容
1	平成30年4月26日	浅井達也	神野小学校	「地域の古墳探検歴史学習」に係る行者塚古墳の現地解説
2	平成30年5月6日	平尾英希	加古川総合文化センター	「史跡めぐり - 西条古墳群 -」に係る西条古墳群の現地解説
3	平成30年5月22日	平尾英希	加古川総合文化センター	兵庫大学共通教育機構「地域と文化財」に係る施設見学会案内
4	平成30年5月26日	宮本佳典	高砂市立図書館	講演「近世高砂の美術 - 三浦迂斎と五十嵐俊明を中心として -」
5	平成30年6月7日	平尾英希	加古川総合文化センター	兵庫大学共通教育機構「地域と文化財」に係る施設見学会案内
6	平成30年6月16日	宮本佳典	高砂市立図書館	講演「近世曾根の美術 - 曾我蕭白を中心として -」
7	平成30年8月26日	宮本佳典	大沢地区まちづくり協議会	講演「大沢地区の歴史と文化財等について」
8	平成30年10月14日	宮本佳典	高砂市立図書館	フィールドワーク「曾根天満宮と近世高砂の美術」に係る現地解説
9	平成31年1月9日	山中リュウ	兵庫県学校厚生会東播支部	講演「加古川市の文化財調査 - 埋蔵文化財の発掘調査を中心に -」

14 「トライやる・ウィーク」の受入れ

兵庫県では、平成10(1998)年度から公立中学校2年生を対象に、生徒たちが地域での様々な体験活動を通じて働くことの意義や楽しさを実感するとともに、生徒の自主性や自立性等を育むことを目的とした「トライやる・ウィーク」を実施している。

文化財調査研究センターではその実施当初から生徒の受入れを行っており、平成30年度は6月4日から8日までの5日間、加古川市立平岡中学校の生徒3名を受け入れた。体験内容は、博物館施設等の見学、古墳や寺社仏閣等における文化財巡視、本岡家住宅の清掃、土器の洗浄や接合、拓本といった埋蔵文化財の資料整理などである。(平尾)

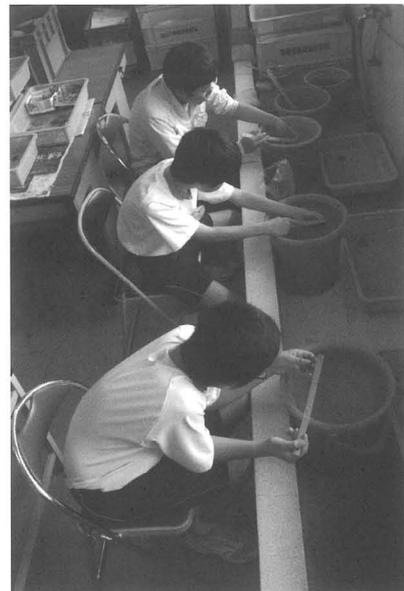


写真 65 「トライやる・ウィーク」活動状況

第3章 歴史文化基本構想策定事業

1 はじめに

文化財保護行政、観光振興行政、まちづくり行政を進めていく中で、地域の歴史文化を資源として考え、その保存と活用を図るための基本計画としての「加古川市歴史文化基本構想」（以下、「構想」という。）を策定するために、平成29年度から平成31年度までの3か年の計画で、歴史文化基本構想策定事業に取り組み、平成30年度はその2年目であった。

なお、初年度である平成29年度は、「構想」を策定するための事前把握及び基礎調査を実施し、「構想」の素案を作成している。

2 事業内容

平成30年度は、「構想」を策定するための基礎調査に対して前年度からの積み残しの分を調査するとともに、前年度に作成した「構想」（案）をもとに策定委員会を開催し、専門家の意見等を基に修正した。さらに、パブリックコメント等による修正を行い、平成31年3月14日に加古川市教育委員会の議決を経て「構想」を策定した。

（1）調査事業

平成29年度の調査事業で収集・整理した歴史文化関連事項を資料集にまとめたが、補足調査が必要であったため、加古川市北部を中心とした年末年始の民俗行事について、東播磨地域史懇話会の上月昭信氏と山本祐作氏によって追加調査を実施していただき、トンド焼きや神事など、現在も祖先からの伝統を受け継いでいる事例が多いことを確認することができた。

（2）策定作業

前年度からの構想策定準備会を中心に「構想」（案）の検討を進め、大学教授や行政、市民の代表等で組織する「加古川市歴史文化基本構想策定委員会」を組織し（表7）、適宜、内容を検討し、2回の会議で意見交換を行うなど、「構想」（案）の内容の充実を図った。

その他、パブリックコメントでは3名の方から70件を超える意見をいただき、アンケートについては、約50名の方から回答を得ることができ、これらの意見を踏まえて、「構想」を策定することができた。

なお、主な意見交換や意見公募の実施状況は次のとおりである。

平成30年	7月6日	第1回文化財審議委員会
	11月2日	第1回歴史文化基本構想策定委員会
	12月3日	第2回文化財審議委員会
	10月から12月まで	文化財講座（3回開催）受講者からのアンケート・意見聴取
	11月21日から12月20日まで	パブリックコメント
平成31年	1月29日	第2回歴史文化基本構想策定委員会
	2月1日	第3回文化財審議委員会
	3月14日	3月定例教育委員会会議

また、構想策定に係る基礎調査資料等を収集・整理するとともに、基礎調査資料等を公開可能な内容に編集し、「加古川市歴史文化基本構想資料集」（100部）を作成した。

表7 加古川市歴史文化基本構想策定委員会委員名簿一覧表

	氏名	所属	備考
委員長・専門委員	金子 哲	兵庫大学教授	日本中世史
副委員長・市民委員	山本祐作	加古川文化遺産活性化実行委員会副会長	郷土史
専門委員	神戸佳文	兵庫県立歴史博物館社会教育推進専門員	彫刻
専門委員	茂渡俊慶	鶴林寺住職	宗教・美術工芸
専門委員	村上裕道	京都橘大学教授	建造物
市民委員	大庫隆夫	加古川観光協会会長	観光
市民委員	西村恭子	作家	郷土史
市民委員	石原 淳	加古川市協働推進部長	行政（文化）
市民委員	小野享平	加古川市産業経済部長	行政（観光）
市民委員	中田直文	加古川市都市計画部長	行政（都市計画）
市民委員	大西隆博	加古川市教育委員会教育指導部長	行政（文化財）

3 決算

収入の部	3,839,884 円	
（内訳）	3,540,000 円	国庫補助金、文化芸術振興費補助金、文化遺産総合活用推進事業
	299,884 円	加古川市自己負担金
支出の部	3,839,884 円	
調査研究	243,527 円	民俗行事調査第二次
（内訳）	107,720 円	資料整理員賃金
	103,500 円	調査員謝礼
	32,307 円	調査消耗品、コピー代
策定作業	3,596,357 円	構想策定
（内訳）	216,240 円	事務補助賃金
	104,980 円	委員謝礼
	21,560 円	通信運搬費
	3,132,000 円	構想策定業務委託
	121,577 円	事務消耗品、コピー代

（宮本）



写真 66 平成 30 年度歴史文化基本構想策定事業の成果品

第4章 文化財審議委員会

1 委員

「加古川市文化財の保護に関する条例」に基づき、文化財の保存及び活用について審議するための附属機関として文化財審議委員会を設置している。平成30(2018)年度は、平成30年10月19日をもって文化財審議委員の任期満了を迎えたため、改めて8名（再任7名、新任1名）の学識経験者及び有識者の諸先生に委員を委嘱した。その任期は、平成30年10月20日から令和2年10月19日までの2年間である。各委員の氏名、主な専門分野、所属は以下のとおりである。

平成28年10月20日から平成30年10月19日まで

委員長	茂渡俊慶	仏教文化、地域史	鶴林寺住職
副委員長	金子 哲	歴史学、中世史	兵庫大学共通教育機構教授
委員	魚津知克	考古学、歴史学	大手前大学史学研究所主任
委員	上月昭信	考古学、郷土史	兵庫県文化財保護指導委員
委員	友久伸子	考古学、郷土史	日本考古学協会会員
委員	岡田 功	郷土史、歴史資料	加古川史学会
委員	東野アドリアナ	建築学、建造物	明石工業高等専門学校建築学科准教授
委員	藤原喜美子	民俗行事、民俗資料	流通科学大学人間社会学部准教授

平成30年10月20日から令和2年10月19日まで

委員長	茂渡俊慶	仏教文化、地域史	鶴林寺住職
副委員長	金子 哲	歴史学、中世史	兵庫大学共通教育機構教授
委員	魚津知克	考古学、歴史学	大手前大学史学研究所主任
委員	上月昭信	考古学、郷土史	兵庫県文化財保護指導委員
委員	友久伸子	考古学、郷土史	日本考古学協会会員
委員	岡田 功	郷土史、歴史資料	加古川史学会
委員	荘所直哉	建築学、建造物	明石工業高等専門学校建築学科准教授
委員	藤原喜美子	民俗行事、民俗資料	流通科学大学人間社会学部准教授

2 会議

第1回	日時	平成30年7月6日（金）午後1時55分から3時40分まで
	場所	教育委員室（加古川市役所新館8階）
	出席者	茂渡委員長、金子副委員長、上月委員、岡田委員、藤原委員
	内容	○平成29年度文化財関係事業及び決算について ○平成30年度文化財関係事業及び予算について ○歴史文化基本構想策定事業について ○その他、指定文化財候補及び文化財行政に係る意見交換など

第2回 日 時 平成30年12月3日(月)午後1時55分から3時30分まで
場 所 教育委員室(加古川市役所新館8階)
出席者 茂渡委員長、金子副委員長、魚津委員、上月委員、友久委員、岡田委員、
荘所委員、藤原委員
内 容 ○平成30年度加古川市指定文化財候補について
・五大尊像(鶴林寺)
○歴史文化基本構想策定事業について
○文化財関係事業について
・事業などの計画・進行状況について
・民間開発に伴う栗津遺跡本発掘調査について
・雁戸井地区ほ場整備事業に伴う片山遺跡本発掘調査について
・文化財保護法改正に伴う文化財保存活用地域計画策定などの概要について
○その他、文化財行政に係る意見交換など

第3回 日 時 平成31年2月1日(金)午後1時50分から3時40分まで
場 所 鶴林寺、善美堂
出席者 茂渡委員長、金子副委員長、上月委員、友久委員、岡田委員、荘所委員、
藤原委員
内 容 ○平成30年度加古川市指定文化財指定申請に係る審議について
・五大尊像(鶴林寺)
○歴史文化基本構想策定事業の進捗状況について
○その他、文化財行政に係る意見交換など

(平尾)



写真67 五大尊像の観察状況



写真68 五大尊像軸木墨書の観察状況

第5章 文化財関係の事務処理

1 埋蔵文化財事務

(1) 埋蔵文化財包蔵地の照会

平成30(2018)年度における埋蔵文化財包蔵地の照会件数は2,551件(昨年度比+69件)であった。その内訳は、事業者による計画前の照会が2,342件、建設予定地に関する事前合議等が120件、開発事業に関する事前協議等が89件である。

(2) 文化財保護法に基づく埋蔵文化財発掘届出・通知

平成30年度における文化財保護法第93・94条に基づく埋蔵文化財発掘届出・通知の処理件数は、146件(昨年度比-51件)であった(表8)。このうち、第93条に基づく発掘届出は135件、第94条に基づく発掘通知は11件である。工事目的の内訳は、道路2件、学校施設1件、住宅32件、個人住宅59件、工場2件、店舗3件、個人住宅兼店舗2件、その他建物1件、宅地造成6件、公園造成1件、水道・ガス・電気28件、その他開発9件である。

表8 埋蔵文化財発掘届・通知一覧

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{註1}	文書番号
1	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 37 番 26	事業者	慎重工事		加教文第 26 号
2	北谷遺跡 その他の遺跡 弥生～中世	個人住宅	西神吉町宮前 623 番	個人	確認調査 慎重工事	4 月 6 日	加教文第 27 号
3	畑遺跡 集落跡 縄文～平安	その他開発 太陽光発電	志方町畑 316 番、317 番 1	個人	確認調査 慎重工事	4 月 17 日	加教文第 28 号
4	砂部遺跡 集落跡 縄文～奈良	個人住宅	東神吉町神吉 524 番 4・6	個人	慎重工事		加教文第 48 号
5	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	店舗	尾上町口里 730 番 4	個人	慎重工事		加教文第 64 号
6	山之上遺跡 散布地 旧石器	ガス	平岡町山之上 684 番地先	事業者	慎重工事		加教文第 82 号
7	一色構居跡 城館跡 中世	個人住宅	平岡町一色 61 番 1	個人	慎重工事		加教文第 114 号
8	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	工場	尾上町口里 498 番 1	事業者	慎重工事		加教文第 142 号
9	山之上遺跡 散布地 旧石器	個人住宅	平岡町山之上 684 番 138	個人	慎重工事		加教文第 185 号
10	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口 149 番地先	事業者	慎重工事		加教文第 228 号
11	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口 148 番 14 地先	事業者	慎重工事		加教文第 245 号
12	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	住宅	野口町坂元北三丁目 1 番 6	事業者	慎重工事		加教文第 254 号
13	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	尾上町口里 524 番 19	個人	慎重工事		加教文第 272 号
14	細田構居跡 城館跡 中世	ガス	野口町良野 1015 番地先	事業者	慎重工事		加教文第 295 号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{註1}	文書番号
15	長畑遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	平岡町高畑 138 番 1・2・9	個人	慎重工事		加教文第 338 号
16	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	東神吉町神吉 651 番 147	個人	確認調査 慎重工事	6 月 1 日	加教文第 375 号
17	砂部構居跡 城館跡 中世	ガス	東神吉町砂部 182 番地先	事業者	慎重工事		加教文第 377 号
18	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町美乃利 337 番 10 の一部	事業者	慎重工事		加教文第 378 号
19	観音寺城跡 城館跡 中世	個人住宅	志方町志方町 1129 番 2	個人	確認調査 慎重工事	6 月 27 日	加教文第 389 号
20	石町中世墓 その他の墓 中世	その他開発 ブロック塀撤去	別府町石町 52 番	事業者	確認調査 工事立会	5 月 29・30 日	加教文第 390 号
21	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 149 番 1 の一部	個人	慎重工事		加教文第 392 号
22	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 149 番 9	個人	慎重工事		加教文第 393 号
23	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 36 番 12	事業者	慎重工事		加教文第 399 号
24	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 36 番 19	事業者	慎重工事		加教文第 400 号
25	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北五丁目 36 番 2	個人	慎重工事		加教文第 420 号
26	神野北山遺跡 生産遺跡 古墳	個人住宅	神野町神野 241 番 1 の一部、 242 番 6	個人	慎重工事		加教文第 421 号
27	大塚遺跡 集落跡 奈良～中世	住宅	野口町良野 613 番 2	事業者	確認調査 慎重工事	6 月 5 日	加教文第 429 号
28	古大内遺跡 官衙跡 奈良	工場	野口町古大内 397 番 2、400 番 1、411 番、453 番、469 番 1	事業者	確認調査 発掘調査	8 月 22～24・ 27～31 日、9 月 3 日	加教文第 430 号
29	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	住宅	尾上町口里 524 番 13	事業者	慎重工事		加教文第 450 号
30	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	住宅	野口町坂元北三丁目 1 番 2	事業者	慎重工事		加教文第 456 号
31	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	東神吉町神吉 651 番 164	個人	慎重工事		加教文第 458 号
32	稲屋構居跡 城館跡 中世	住宅	加古川町稲屋 644 番	事業者	慎重工事		加教文第 487 号
33	粟津遺跡 集落跡 弥生～古墳	店舗	加古川町北在家 2669～2673・ 2676・2677 番	事業者	確認調査 発掘調査	8 月 1・2・ 6 日	加教文第 527 号
34	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	学校建設	加古川町大野 845 番	加古川市	確認調査 慎重工事	6 月 21 日	加教文第 529 号
35	大塚遺跡 集落跡 奈良～中世	その他開発 広告板設置	野口町良野 22 番 1	事業者	工事立会		加教文第 540 号
36	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町美乃利 337 番 12 の一部	事業者	慎重工事		加教文第 591 号
37	北谷遺跡 その他の遺跡 弥生～中世	下水道	西神吉町宮前 675 番 1 地先～ 1410 番地先	加古川市上下水道局	工事立会		加教文第 593 号
38	観音寺城跡 城館跡 中世	個人住宅	志方町志方町 1550 番 1・4	個人	確認調査 慎重工事	6 月 26 日	加教文第 594 号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{註1}	文書番号
39	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利 119 番 8・22	個人	慎重工事		加教文第 620 号
40	観音寺城跡 城館跡 中世	道路	志方町志方町 1634 番 3	加古川市	確認調査 慎重工事	9月6日	加教文第 641 号
41	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町美乃利 104 番 14	事業者	慎重工事		加教文第 658 号
42	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 37 番 12・39	事業者	慎重工事		加教文第 665 号
43	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 36 番 1、37 番 13・40	事業者	慎重工事		加教文第 666 号
44	尾上遺跡 集落跡 弥生～古墳	ガス	加古川町北在家 483 番 3 地先	事業者	慎重工事		加教文第 681 号
45	岸城跡 城館跡 中世	個人住宅	西神吉町岸 344 番 1	個人	慎重工事		加教文第 693 号
46	升田遺跡 集落跡 奈良	個人住宅	東神吉町升田 1003 番 2	個人	確認調査 慎重工事	7月13日	加教文第 694 号
47	神野遺跡 集落跡 縄文～平安	個人住宅兼店舗	神野町西条 1046 番 2	事業者	確認調査 慎重工事	7月27日	加教文第 731 号
48	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利 338 番 22	個人	確認調査 慎重工事	8月8日	加教文第 732 号
49	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目 21 番 7	個人	慎重工事		加教文第 736 号
50	一色構居跡 城館跡 中世	住宅	平岡町一色 530 番 5・9	事業者	慎重工事		加教文第 758 号
51	一色構居跡 城館跡 中世	住宅	平岡町一色 530 番 7	事業者	慎重工事		加教文第 759 号
52	大塚遺跡 集落跡 奈良～中世	個人住宅	野口町良野 613 番 26	個人	慎重工事		加教文第 774 号
53	中西台地遺跡 集落跡 弥生～中世	下水道	東神吉町神吉 1123 番 1 地先ほか	加古川市上下水道局	工事立会		加教文第 783 号
54	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	ガス	東神吉町神吉 651 番 147 地先	事業者	慎重工事		加教文第 785 号
55	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利 119 番 8・22	個人	慎重工事		加教文第 793 号
56	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町美乃利 337 番 10 の一部	事業者	慎重工事		加教文第 795 号
57	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 151 番 5・6	個人	慎重工事		加教文第 809 号
58	大塚遺跡 集落跡 奈良～中世	住宅	野口町良野 990 番 15	事業者	慎重工事		加教文第 815 号
59	大塚遺跡 集落跡 奈良～中世	住宅	野口町良野 990 番 16	事業者	慎重工事		加教文第 816 号
60	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	住宅	東神吉町西井ノ口 10 番 7	事業者	慎重工事		加教文第 840 号
61	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	住宅	東神吉町西井ノ口 10 番 5	事業者	慎重工事		加教文第 846 号
62	下村遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	八幡町下村 849 番 2・4	個人	確認調査 慎重工事	8月9日	加教文第 876 号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{注1}	文書番号
63	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 400 番 4	個人	慎重工事		加教文第 880 号
64	中西低地遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	西神吉町中西 35 番	個人	慎重工事		加教文第 915 号
65	今福遺跡 集落跡 弥生	住宅	尾上町今福 338 番 12	事業者	慎重工事		加教文第 931 号
66	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	ガス	東神吉町西井ノ口 219 番 1 ～ 218 番 9 地先	事業者	工事立会		加教文第 939 号
67	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口 253 番～ 230 番 9 地先	事業者	慎重工事		加教文第 972 号
68	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	宅地造成	野口町坂元北二丁目 52・55 番	事業者	慎重工事		加教文第 981 号
69	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 149 番 16 の一 部	個人	慎重工事		加教文第 1035 号
70	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	下水道	加古川町溝之口 83 番 32 ～ 85 番 6 地先	加古川市上下水道局	慎重工事		加教文第 1051 号
71	稲屋構居跡 城館跡 中世	住宅	加古川町稲屋 591 番 4、592 番	個人	慎重工事		加教文第 1057 号
72	稲屋構居跡 城館跡 中世	住宅	加古川町稲屋 173 番 1、177 番 14	個人	慎重工事		加教文第 1094 号
73	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 80 番 5・6、 81 番 1 の各一部	個人	慎重工事		加教文第 1099 号
74	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 36 番 7	事業者	慎重工事		加教文第 1109 号
75	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	住宅	東神吉町西井ノ口 10 番 6	事業者	慎重工事		加教文第 1121 号
76	広沢山遺跡 集落跡 古墳～平安	公園造成	加古川町大野 1754 番 2 ほか	加古川市	慎重工事		加教文第 1125 号
77	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	尾上町口里 560 番 1	個人	慎重工事		加教文第 1137 号
78	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	東神吉町西井ノ口 10 番 3	個人	慎重工事		加教文第 1138 号
79	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町美乃利 493 番 10	事業者	慎重工事		加教文第 1162 号
80	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北三丁目 22 番 2	個人	慎重工事		加教文第 1191 号
81	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	住宅	野口町坂元北二丁目 52 番の一 部	事業者	慎重工事		加教文第 1257 号
82	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 36 番 17	事業者	慎重工事		加教文第 1327 号
83	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅兼店舗	加古川町美乃利 470 番 2	個人	慎重工事		加教文第 1350 号
84	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目 39 番 2	個人	慎重工事		加教文第 1353 号
85	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 75 番 5	個人	慎重工事		加教文第 1358 号
86	稲屋構居跡 城館跡 中世	ガス	加古川町稲屋 177 番 12 ～ 7 地 先	事業者	工事立会		加教文第 1415 号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{注1}	文書番号
87	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	ガス	平岡町新在家 682 番 5 地先	事業者	工事立会		加教文第 1416 号
88	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目 41 番 5	個人	慎重工事		加教文第 1440 号
89	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 75 番 1	個人	慎重工事		加教文第 1441 号
90	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	店舗	野口町坂元 118 番 1 ほか 8 筆、 地先水路の一部	事業者	確認調査 発掘調査	12 月 11・12・ 14・17 日	加教文第 1444 号
91	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	道路	加古川町大野地内	加古川市	確認調査 発掘調査	12 月 15 日	加教文第 1454 号
92	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	ガス	野口町坂元北二丁目 52 番地先	事業者	慎重工事		加教文第 1476 号
93	升田遺跡 集落跡 奈良	個人住宅	東神吉町升田 998 番 3 の一部	個人	慎重工事		加教文第 1497 号
94	一色構居跡 城館跡 中世	個人住宅	平岡町一色 41 番 1 の一部	個人	慎重工事		加教文第 1532 号
95	大塚遺跡 集落跡 奈良～中世	個人住宅	野口町良野 613 番 27	個人	慎重工事		加教文第 1533 号
96	一色構居跡 城館跡 中世	住宅	平岡町一色 530 番 6・10	事業者	慎重工事		加教文第 1536 号
97	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 150 番 3 の一部	個人	慎重工事		加教文第 1553 号
98	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口 340 番地先	事業者	慎重工事		加教文第 1569 号
99	長畑遺跡 集落跡 弥生	ガス	平岡町高畑 138 番 11 地先	事業者	慎重工事		加教文第 1570 号
100	日岡山 15 号墳 古墳 古墳	その他開発 土壌改良	加古川町大野地内(日岡山公園)	加古川市	慎重工事		加教文第 1577 号
101	日岡山 16 号墳 古墳 古墳	その他開発 土壌改良	加古川町大野地内(日岡山公園)	加古川市	慎重工事		加教文第 1578 号
102	日岡山 17 号墳 古墳 古墳	その他開発 土壌改良	加古川町大野地内(日岡山公園)	加古川市	慎重工事		加教文第 1579 号
103	日岡山 18 号墳 古墳 古墳	その他開発 土壌改良	加古川町大野地内(日岡山公園)	加古川市	慎重工事		加教文第 1580 号
104	中西台地遺跡 集落跡 弥生～中世	個人住宅	西神吉町中西 227 番	個人	慎重工事		加教文第 1588 号
105	中津構居跡 城館跡 中世	個人住宅	加古川町中津 115 番 5	個人	慎重工事		加教文第 1589 号
106	神吉南遺跡 集落跡 弥生～奈良	その他開発 太陽光発電	東神吉町神吉 209 番 1	事業者	確認調査 慎重工事	11 月 26・27 日	加教文第 1606 号
107	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	宅地造成	尾上町口里 496 番 1	事業者	慎重工事		加教文第 1622 号
108	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	宅地造成	野口町坂元北一丁目 21 番	事業者	慎重工事		加教文第 1623 号
109	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 334 番 3・4・ 9・11、339 番 3、340 番 2～ 6	個人	慎重工事		加教文第 1692 号
110	樋之口遺跡 集落跡 弥生	宅地造成	尾上町養田 350 番 7	事業者	慎重工事		加教文第 1693 号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{注1}	文書番号
111	中西台地遺跡 集落跡 弥生～中世	個人住宅	東神吉町神吉 1118 番 1	個人	確認調査 慎重工事	1 月 11 日	加教文第 1710 号
112	古大内遺跡 官衙跡 奈良	その他開発 駐車場	野口町古大内 467 番 4	事業者	工事立会		加教文第 1756 号
113	今福遺跡 集落跡 弥生	ガス	尾上町今福 248 番 2 ～ 159 番 7 地先	事業者	工事立会		加教文第 1758 号
114	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 317 番 1 ・ 7 ・ 8	個人	慎重工事		加教文第 1785 号
115	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	住宅	東神吉町西井ノ口 10 番 9	事業者	慎重工事		加教文第 1786 号
116	神野遺跡 集落跡 縄文～平安	住宅	神野町西条 1056 番 11 ほか 2 筆	事業者	慎重工事		加教文第 1823 号
117	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	ガス	野口町坂元北三丁目 22 番 2 地 先	事業者	慎重工事		加教文第 1824 号
118	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利 103 番 5	個人	慎重工事		加教文第 1856 号
119	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町美乃利 338 番 22 地先	事業者	慎重工事		加教文第 1918 号
120	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口 81 番 1 地先	事業者	慎重工事		加教文第 1920 号
121	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	東神吉町神吉 651 番 21	個人	慎重工事		加教文第 1942 号
122	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 232 番 12	個人	慎重工事		加教文第 1956 号
123	長畑遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	平岡町高畑 138 番 10	個人	慎重工事		加教文第 1990 号
124	一色構居跡 城館跡 中世	ガス	平岡町一色 41 番地先	事業者	慎重工事		加教文第 2013 号
125	今福遺跡 集落跡 弥生	宅地造成	尾上町今福 385 番 1	個人	慎重工事		加教文第 2019 号
126	石弾城跡 城館跡 中世	宅地造成	加古川町木村 659 番 1 ほか 3 筆、地先水路、里道	事業者	確認調査 慎重工事	2 月 13 日	加教文第 2043 号
127	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口 150 番 3 地先	事業者	慎重工事		加教文第 2064 号
128	横大路遺跡 散布地 縄文	個人住宅	志方町横大路 268 番 5	個人	確認調査 慎重工事	3 月 12 日	加教文第 2065 号
129	横倉城跡 城館跡 中世	電気	平岡町新在家 904 番、904 番 1 ～ 3、905 番 1 地先	事業者	工事立会		加教文第 2137 号
130	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	個人住宅	加古川町大野 609 番 1	個人	慎重工事		加教文第 2187 号
131	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目 39 番 1	個人	慎重工事		加教文第 2211 号
132	細田構居跡 城館跡 中世	個人住宅	野口町良野 1064 番 1	個人	慎重工事		加教文第 2235 号
133	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利 377 番 10	個人	慎重工事		加教文第 2241 号
134	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 176 番 7、187 番 1 ・ 2	事業者	慎重工事		加教文第 2264 号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{註1}	文書番号
135	西条遺跡 集落跡 縄文～平安	ガス	神野町西条 1078 番地先	事業者	工事立会		加教文第 2265 号
136	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 152 番 2・5・6 の各一部	個人	慎重工事		加教文第 2273 号
137	長畑遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	平岡町高畑 144 番 4	個人	慎重工事		加教文第 2280 号
138	今福遺跡 集落跡 弥生	ガス	尾上町今福 385 番 1 地先	事業者	慎重工事		加教文第 2290 号
139	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	個人住宅	加古川町大野 944 番 2	個人	確認調査 慎重工事	3月8日	加教文第 2320 号
140	今福遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	尾上町今福 355 番 13・15、358 番 15	個人	慎重工事		加教文第 2383 号
141	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	ガス	野口町坂元北一丁目 21 番地先	事業者	慎重工事		加教文第 2425 号
142	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	東神吉町砂部 354 番 96、神吉 608 番 13・244	個人	慎重工事		加教文第 2454 号
143	志方大歳神社遺跡 散布地 旧石器	個人住宅	志方町上富木 672 番 7	個人	慎重工事		加教文第 2455 号
144	中西低地遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	西神吉町大国 13 番 7	個人	慎重工事		加教文第 2462 号
145	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口 321 番地先	事業者	慎重工事		加教文第 2472 号
146	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	その他建物	加古川町溝之口 114 番 1	個人	慎重工事		加教文第 2498 号

註1：調査期間は確認調査の期間であり、発掘調査及び工事立会の期間は記載していない。

(3) 文化財保護法に基づく埋蔵文化財発掘調査通知

平成 30 年度は、表 9 のとおり文化財保護法第 99 条に基づく埋蔵文化財発掘調査通知を兵庫県教育委員会に報告した。

表 9 埋蔵文化財発掘調査通知一覧

番号	遺跡名	所在地	調査面積	調査の契機	調査期間	調査担当者	文書番号	備考
1	片山遺跡 集落跡 弥生・奈良～中世	八幡町下村地内	356 m ²	農業基盤整備	9月8日 ～12月28日	西岡巧次	加教文第 1139 号	
2	粟津遺跡 集落跡 弥生	加古川町北在家 2669 ～2673・2676・2677	250 m ²	店舗	10月2日 ～11月22日	浅井達也 平尾英希	加教文第 527 号	
3	古大内遺跡 官衛跡 奈良	野口町古大内 397 番 2、400 番 1、411 番、 453 番、469 番 1	110 m ²	工場	3月4日 ～3月22日	山中リュウ	加教文第 430 号	

(4) 周知の埋蔵文化財包蔵地の変更

平成30年度は、表10のとおり周知の埋蔵文化財包蔵地の変更を兵庫県教育委員会に報告した。

表10 周知の埋蔵文化財包蔵地の変更一覧

番号	遺跡名	所在地	変更理由	発見年月日	発見の事情	文書番号など	備考
1	西田池南遺跡 集落跡 奈良・平安	八幡町上西条	全域発見	平成29年12月6日	確認調査	平成30年4月16日 加教文第147号	令和元年10月31日付 教文第2237号にて通知
2	広沢山遺跡 集落跡 古墳～平安	加古川町大野	全域発見	平成30年6月4日	試掘調査	平成30年7月3日 加教文第218号	令和元年10月31日付 教文第2238号にて通知
3	西条遺跡 集落跡 縄文～平安	神野町西条	一部範囲発見	平成30年12月8日	試掘調査	平成31年1月18日 加教文第204号	平成31年4月1日付 教文第2236号にて通知

(5) 埋蔵物発見届

平成30年度は、表11のとおり埋蔵物発見届を加古川警察署へ提出した。

表11 埋蔵物発見届一覧

番号	遺跡名	所在地	埋蔵物の名称及び数量	発見月日	発見者	土地所有者	文書番号
1	石町中世墓 その他の墓 中世	別府町石町52番地	土師器・須恵器 収納コンテナ2箱	5月30日	加古川市教育委員会	事業者	加教文第390号
2	栗津遺跡 集落跡 弥生～古墳	加古川町北在家2669 ～2673・2676・2677	弥生土器・須恵器 収納コンテナ2箱	11月22日	加古川市教育委員会	個人	加教文第527号
3	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町溝之口140番 1～5・8	弥生土器・土師器・須恵器など 収納コンテナ1箱	11月22日	加古川市教育委員会	個人(2名)	加教文第1655号
4	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町美乃利381番 1、381番2の一部、 水路、市道	弥生土器・土師器・須恵器 収納コンテナ1箱	11月22日	加古川市教育委員会	個人(3名)	加教文第1657号
5	米田町平津地区	米田町平津384番1ほか	弥生土器・土師器・須恵器 収納コンテナ1箱	11月22日	加古川市教育委員会	加古川市	加教文第1658号
6	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町溝之口字上横 田地内	土師器・須恵器・イダゴ壺 など 収納コンテナ1箱	11月22日	加古川市教育委員会	個人	加教文第1659号
7	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町美乃利337番 1・4	土師器・須恵器 収納コンテナ1箱	11月28日	加古川市教育委員会	事業者	加教文第1667号
8	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町溝之口122番 1・3の各一部	土師器・須恵器 収納コンテナ1箱	11月28日	加古川市教育委員会	個人	加教文第1668号
9	平津構居跡 城館跡 中世	米田町平津522番2	弥生土器・土師器・須恵器 収納コンテナ1箱	11月28日	加古川市教育委員会	個人	加教文第1669号
10	東沢4・5号墳 古墳 古墳	八幡町上西条	須恵器 収納コンテナ1箱	11月28日	加古川市教育委員会	個人(78名)	加教文第1670号
11	片山遺跡 集落跡 弥生・奈良～中世	八幡町下村地内	弥生土器・土師器・須恵器・ 緑釉陶器・サヌカイト 収納コンテナ1箱	12月28日	加古川市教育委員会	個人(78名)	加教文第1139号
12	古大内遺跡 官衙跡 奈良	野口町古大内397番 2、400番1、411番、 453番、469番1	土師器・須恵器・瓦 収納コンテナ2箱	3月22日	加古川市教育委員会	事業者	加教文第430号

(平尾)

第6章 組織、予算・決算、管理

1 文化財保護事務の体制

(1) 事務局

平成30(2018)年度の加古川市教育委員会の文化財保護事務の体制は以下のとおりである。

加古川市教育委員会事務局	教育指導部	文化財調査研究センター
教育長 田淵博之	部長 大西隆博	
	次長 平田喜昭	

(2) 文化財調査研究センター職員

平成30年度の文化財調査研究センターの職員は以下のとおりである。

所長	沼田好博
副所長	宮本佳典(学芸員)
庶務担当係長	安田啓一郎
主査	藤原典子(教育研究所主査兼務、再任用職員)
学芸員	山中リュウ
学芸員	浅井達也(任期付職員)
学芸員	平尾英希
嘱託員	西岡巧次(埋蔵文化財専門員)

2 予算・決算

(1) 歳入決算額 ()内は当初予算額

(款) 国庫支出金	(項) 国庫補助金	(目) 教育費国庫補助金	5,990千円 (5,919千円)
(款) 県支出金	(項) 県庫補助金	(目) 教育費県庫補助金	1,225千円 (1,250千円)
(款) 諸収入	(項) 受託事業収入	(目) 教育費受託収入	10,042千円 (10,359千円)
(款) 諸収入	(項) 雑入	(目) 雑入	19千円 (30千円)
計			17,276千円 (17,558千円)

(2) 歳出決算額 ()内は当初予算額、事業名の下に主な事業内容を記入

(款) 教育費	(項) 社会教育費	(目) 文化財保護費	以上共通
(事業) 文化財調査事業			16,578千円 (18,554千円)
	市内遺跡発掘調査(国庫補助事業)、 雁戸井地区ほ場整備事業に伴う本発掘調査・確認調査、公共事業に伴う試掘調査		
(事業) 文化財保護活動事業			4,788千円 (5,676千円)
	文化財審議委員会等開催、文化財ニュース発行、文化財講座開催、文化財説明板設置、 史跡及び建造物等管理、文化財保存管理補助、史跡及び建造物等草刈等管理、 その他の文化財関係事務		
(事業) 歴史文化基本構想策定事業(国庫補助事業)			3,840千円 (4,240千円)
	歴史文化基本構想基礎調査		
計			25,206千円 (28,470千円)

3 施設管理等

環境整備として、加古川市が管理する行者塚古墳、尼塚古墳、人塚古墳（以上、国史跡）、西条廃寺（県史跡）、平木橋（市指定文化財）、里古墳、西山大塚古墳、南大塚古墳、西大塚古墳、西車塚古墳の草刈等環境整備を加古川市シルバー人材センターに委託して行った。

加古川市が管理する県指定文化財本岡家住宅について、清掃及び案内等施設管理を加古川市シルバー人材センターに、また消防設備点検を専門業者に委託して行った。

文化財説明板等設置及び環境整備として、加古川市が提供する文化財説明板等設置及び周辺の清掃等環境整備を加古川市シルバー人材センターに委託して行った。

4 平成 30 年度業務日誌抄

- 4月16日 加古川市文化財ガイドボランティア宮崎氏来所
- 4月26日 神野小学校6年生「地域の古墳探検歴史学習」に係る講師派遣（浅井）
- 5月5日 本岡家住宅こどもの日特別公開、「箏曲柳の会」と「すみれキンダーガーデン」合同コンサート及び体験教室に係る使用受入れ（沼田）
- 5月6日 加古川総合文化センター博物館歴史教室「史跡めぐり - 西条古墳群 -」に係る講師派遣（平尾）
- 5月15日 学術研究に係る資料調査（東車塚古墳出土資料ほか）受入れ
- 5月21日 平成30年度兵庫県指定候補物件に係るヒアリングのため兵庫県庁へ出張（宮本）
- 5月22日 加古川総合文化センターアドバイザーボード委員第1回会議に出席（宮本）
兵庫大学共通教育機構講義「地域と文化財」に係る施設見学案内（平尾）
- 5月26日 高砂市立図書館名誉館長講座「高砂市史を読んで、まちに出よう！2018」に係る講師派遣（宮本）
- 5月29日 兵庫県文化財主管課連絡会議のため兵庫県職員会館へ出張（安田・山中）
- 5月30日 平成30年度加古川市文化財保護協会理事会に出席（沼田）
- 6月4日～6月8日 「トライやる・ウィーク」平岡中学校2年生3名受入れ（平尾ほか）
- 6月7日 兵庫大学共通教育機構講義「地域と文化財」に係る施設見学案内（平尾）
- 6月16日 高砂市立図書館名誉館長講座「高砂市史を読んで、まちに出よう！2018」に係る講師派遣（宮本）
- 6月27日～6月28日 歴史文化基本構想連絡協議会のため京都市東山区総合庁舎へ出張（宮本）
- 7月6日 第1回文化財審議委員会開催
学術研究に係る資料調査（東車塚古墳出土資料ほか）受入れ
- 7月13日 平成30年度東播磨・北播磨地区文化財担当者会議を加古川総合文化センターで開催
- 7月19日 平成30年度（第21回）全国史跡整備市町村協議会近畿地区協議会総会・研修会等 - 赤穂大会 - のため赤穂市文化会館へ出張（山中）
- 8月6日 加古川市文化財審議委員の委嘱に係る打合せのため明石工業高等専門学校へ出張（宮本）
- 8月26日 大沢地区まちづくり協議会第2回「まち歩きと意見交換会」に係る講師派遣（宮本）
- 8月28日 卒業論文執筆に係る資料調査（行者塚古墳関連資料ほか）受入れ
- 8月31日 平成31年度文化財関係補助事業計画ヒアリングのため兵庫県庁へ出張（宮本・山中）
- 9月6日～9月7日 埋蔵文化財担当職員研修（基礎研修）のため兵庫県立考古博物館へ出張（山中・平尾）
- 9月8日～12月28日 雁戸井ほ場整備事業に伴う片山遺跡の本発掘調査
- 9月12日 文化庁による沙弥教信頭像（教信寺）ほかの調査同行（沼田・宮本）
兵庫県教育委員会による県指定文化財候補木造聖徳太子立像（鶴林寺）の調査同行（沼田・宮本）
- 10月2日～11月22日 民間開発に伴う栗津遺跡の本発掘調査
- 10月14日 高砂市立図書館名誉館長講座「高砂市史を読んで、まちに出よう！2018」に係る講師派遣（宮本）

- 10月11日 平成30年度兵庫県都市文化財保護行政連絡協議会に係る兵庫県教育委員会への要望会のため兵庫県庁へ出張（沼田）
- 10月17日 平成30年度文化芸術振興費補助金事業（歴史文化基本構想策定事業）に係るヒアリングのため文化庁地域文化創生本部へ出張（宮本）
テレビ番組作成に係る取材（行者塚古墳出土資料）受入れ
- 10月27日 第1回文化財講座開催
- 11月10日 片山遺跡の発掘調査現地説明会開催
- 11月17日 第2回文化財講座開催
- 11月21日 加古川総合文化センターアドバイザリーボード委員第2回会議に出席（宮本）
- 11月24日～11月30日 本岡家住宅秋の特別公開
- 11月30日 平成30年度兵庫県埋蔵文化財調査成果連絡会のため兵庫県立考古博物館へ出張（山中・平尾）
- 12月1日 第3回文化財講座開催
- 12月3日 第2回文化財審議委員会開催
- 12月28日 『石町中世墓発掘調査報告書』（加古川市文化財調査報告30）発行
- 1月9日 兵庫県学校厚生会東播支部「歴史教室」に係る講師派遣（山中）
- 1月26日 「文化財防火デー」に係る鶴林寺消防訓練出席（沼田）
- 1月31日 大中遺跡調査研究・活用プロジェクト（調査研究部門）第1回研究会のため兵庫県立考古博物館へ出張（山中）
- 2月1日 第3回文化財審議委員会開催
- 2月4日 平成30年度兵庫県史跡整備協議会総会及び研修会のため加西市健康福祉会館ほかへ出張（山中）
- 2月5日 石町中世墓出土埴仏などの蛍光X線分析による胎土分析のため岡山理科大学へ出張（山中・西岡）
- 3月4日～3月22日 民間開発に伴う古大内遺跡の本発掘調査
- 3月13日～3月14日 文化財説明板・標柱立替え作業
- 3月22日 『加古川市文化財年報第2号平成28（2016）年度』発行
- 3月29日 『文化財ニュース』62号、『文化財解説シート』第17～20号発行

（平尾）

報告書抄録

ふりがな	かこがわしぶんかざいねんぼう だいよんごう
書名	加古川市文化財年報 第4号
副書名	平成30(2018)年度
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者	宮本佳典、山中リュウ、浅井達也、平尾英希(編)
編集機関	加古川市教育委員会
所在地	〒675-0101 兵庫県加古川市平岡町新在家1224-7
発行年月日	令和3(2021)年3月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かんのんじじょうせき 観音寺城跡	かこがわし 加古川市 しかたちょう 志方町 しかたちょう 志方町 1634番3	28210	110307	34° 49' 12"	134° 49' 17"	2018年9月6日	6 m ²	道路
かんのちょう 神野町 さいじょうちく 西条地区	かこがわし 加古川市 かんのちょう 神野町 さいじょう 西条 863番の一部ほか	28210	-	34° 47' 18"	134° 52' 59"	2018年12月5日 ～2018年12月8日	31.5 m ²	宅地造成
なかにしだいちいせき 中西台地遺跡	かこがわし 加古川市 ひがしかんきちょう 東神吉町 かんき 神吉 1118番1	28210	110013	34° 47' 49"	134° 49' 30"	2019年1月11日	4 m ²	個人住宅
みのりいせき 美乃利遺跡	かこがわし 加古川市 かこがわちょう 加古川町 おおの 大野 944番2	28210	110218	34° 47' 18"	134° 52' 59"	2019年3月8日	4 m ²	個人住宅
たかはたこふん 高畑古墳	かこがわし 加古川市 しかたちょう 志方町 たかはた 高畑 800番1ほか	28210	110340	34° 49' 26"	134° 50' 8"	2019年3月15日 ～2019年3月20日	46 m ²	店舗

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
観音寺城跡	城館	中世	性格不明遺構	土師器・須恵器	
神野町 西条地区	-	奈良時代 ～中世	土坑・ピット・性格不明遺構	土師器・須恵器	試掘調査後、包蔵地変更 (西条遺跡)
中西台地遺跡	集落	奈良時代 ～平安時代	溝・土坑・ピット	土師器・須恵器・瓦	
美乃利遺跡	集落	平安時代	土坑・性格不明遺構	土師器・須恵器・瓦	
高畑古墳	古墳	古墳時代	横穴式石室・土坑・性格不明 遺構	須恵器・瓦・鉄釘	

加古川市文化財年報

第4号

平成30(2018)年度

令和3(2021)年3月26日発行

編集・発行 加古川市教育委員会 文化財調査研究センター
〒675-0101 兵庫県加古川市平岡町新在家1224-7
TEL 079-423-4088

印刷 稲垣印刷
〒675-0014 兵庫県加古川市野口町古大内349-28
TEL 079-426-6653

